

令和3年度

札幌市行動援護従業者課題解決力等向上支援研修企画運営業務

業務報告書

社会福祉法人 はるにれの里

I. 令和3年度札幌市行動援護従業者課題解決力等向上支援研修企画運営業務令和3年度

本事業は札幌市より委託を社会福祉法人はるにれの里が委託を受けて、令和4年2月24日から令和4年3月31日までの期間に実施した。

1. 業務目的

行動援護従業者等を対象として、強度行動障がいに関する実践的な専門知識支援技術のほか、虐待防止や行動援護従事者の孤立問題などの様々な支援課題に対する具体的解決手法等に係る研修を実施することで、行動援護従業者等の支援の質の向上や人材定着を図り、札幌市の行動援護等サービスの提供体制の更なる充実を推進する。

2. 研修実施にあたって

研修企画としては、「動画配信研修」と「事例検討会」の2つの構成とした。

動画配信研修は「よか支援」「危機介入」「多職種連携における支援会議」という3つのテーマに分け、それぞれ20分程度の動画を作成し、YouTubeでの配信を行った。受講後にはアンケートを必須とした。それぞれの実践的な報告を視聴することで、支援技術の向上やネットワークづくりの考え方について学び、支援の総合力の向上に役立てることを目的とした。

事例検討会は動画配信研修における3つのテーマ毎に分けて実施した。それぞれ希望者がオンラインで参加できるようにした。動画配信研修における事例提供者からの動画作成の際の感想や各テーマについての考え方を伝え、各テーマにおける専門的な知識と経験が豊富なスペシャルコメンテーターが解説を行う流れとした。後半はテーマを設定し、少人数でのディスカッションと、全体での共有の場を設けた。動画配信研修の内容についてさらに深い学びと、他者の支援方法や考え方について触れることで、現場実践への活用に役立てていける場となるよう企画した。

3. 業務実施スケジュール（主な予定のみ）

2月10日	第1回研修運営委員会
2月24日	札幌市とはるにれの里により本事業の契約締結
3月1日	動画配信研修視聴開始
3月3日	第2回研修運営委員会
3月12日	第3回研修運営委員会
3月14日	事例検討会テーマ①【コロナ禍におけるよか支援の実際から学ぶ】
3月17日	事例検討会テーマ②【危機介入における支援の実際から学ぶ】
3月19日	事例検討会テーマ③ 【多職種連携における支援会議（オンライン含む）の実際から学ぶ】
3月31日	本事業完了

4.研修運営委員会

氏名	担当役割	役職等
白川 栄義	外部委員	社会福祉法人あむ 居宅介護等事業所ばでい管理者 さっぽろ行動援護ネットワーク代表
金子 浩治	事業責任者	法人常務理事
西尾 大輔	委員	札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる所長
豊島 隆久	会計担当者	シニアマネージャー
石田 昭人	委員	札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる 発達障害者地域支援マネージャー
中幡 恵太	委員	パーソナルサポートセンターぽけっと副主任（行動援護事業他） さっぽろ行動援護ネットワーク事務局

Ⅱ.札幌市行動援護フォローアップ研修 動画配信研修 実施報告

1.企画意図

動画配信研修は「よか支援」「危機介入」「多職種連携における支援会議」という3つのテーマに分け、それぞれ20分程度の動画を作成し、YouTubeでの配信を行った。受講後にはアンケートを必須とした。それぞれの実践的な報告を視聴することで、支援技術の向上やネットワークづくりの考え方について学び、支援の総合力の向上に役立てることを目的とした。

2.実施概要

視聴期間：令和4年3月1日～3月31日

実施方法：YouTubeによる動画配信

申込総数：192名

総視聴数：

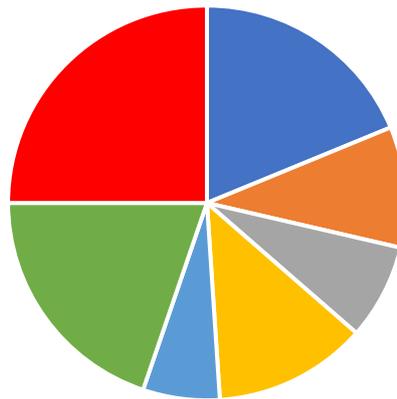
テーマ①【コロナ禍におけるよか支援の実際について】	303回
テーマ②【危機介入における支援の実際から学ぶ】	264回
テーマ③【多職種連携における支援会議（オンライン含む）の実際から学ぶ】	183回

3.申し込み者概要（※Peatixの申し込みフォームより集計）

職種

項目	人数	比率
1.ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）	36	19%
2.相談支援	19	10%
3.施設入所	15	8%
4.生活介護	24	13%
5.共同生活援助（グループホーム）	12	6%
6.児童発達支援、放課後等デイサービス	38	20%
7.その他	48	25%

職種

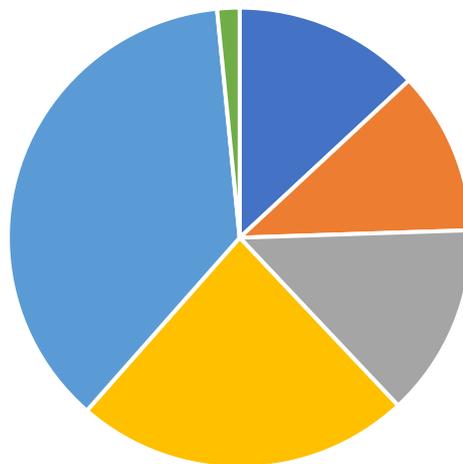


- ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）
- 施設入所
- 共同生活援助（グループホーム）
- その他
- 相談支援
- 生活介護
- 児童発達支援、放課後等デイサービス

経験年数

項目	人数	比率
1. 1年未満	25	13%
2. 1年以上3年未満	22	11%
3. 3年以上5年未満	26	14%
4. 5年以上10年未満	45	23%
5. 10年以上	71	37%
6. 不明	3	2%

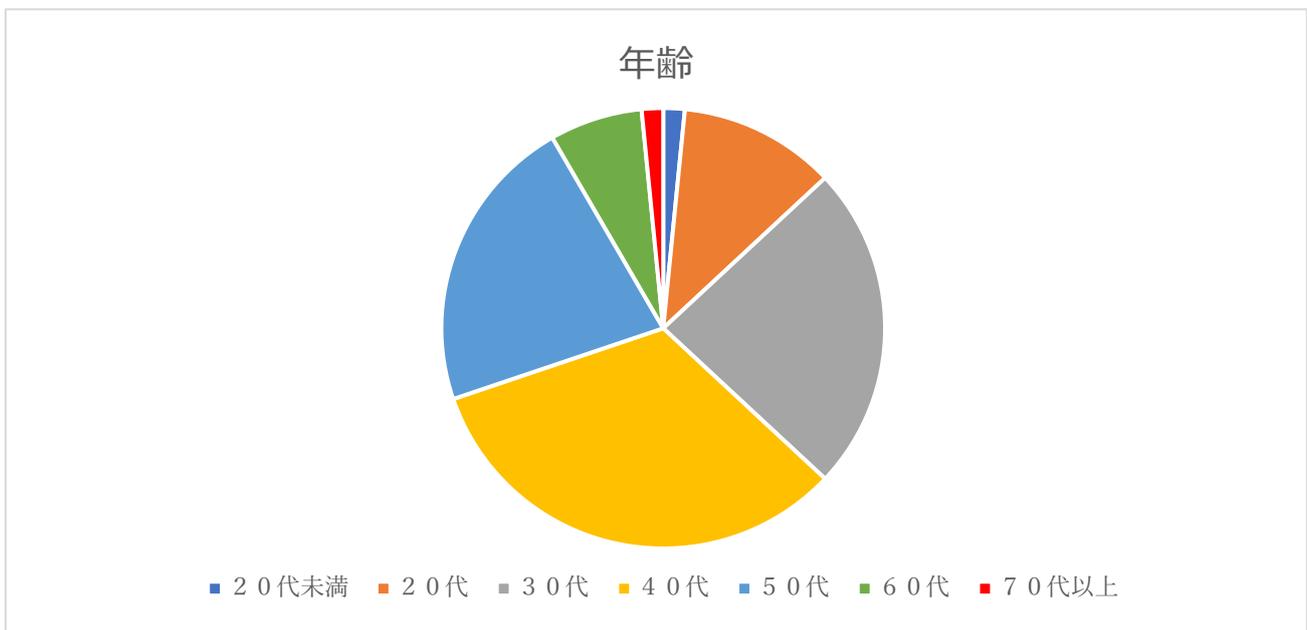
経験年数



- 1年未満
- 1年以上3年未満
- 3年以上5年未満
- 5年以上10年未満
- 10年以上
- 不明

年齢

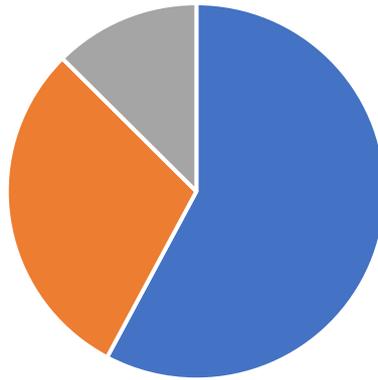
項目	人数	比率
1. 20代未満	3	2%
2. 20代	22	11%
3. 30代	46	24%
4. 40代	63	33%
5. 50代	42	22%
6. 60代	13	7%
7. 70代以上	3	2%



支援提供区域

項目	人数	比率
1. 札幌市民である利用者の支援を行なっている	111	58%
2. 札幌市民である利用者の支援を行っていない。北海道内での支援提供	57	30%
3. 札幌市民である利用者の支援を行っていない。北海道外での支援提供	24	13%

支援提供区域



- 札幌市民である利用者の支援を行なっている
- 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道内での支援提供
- 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道外での支援提供

4. アンケート集計報告

アンケート回答数：153

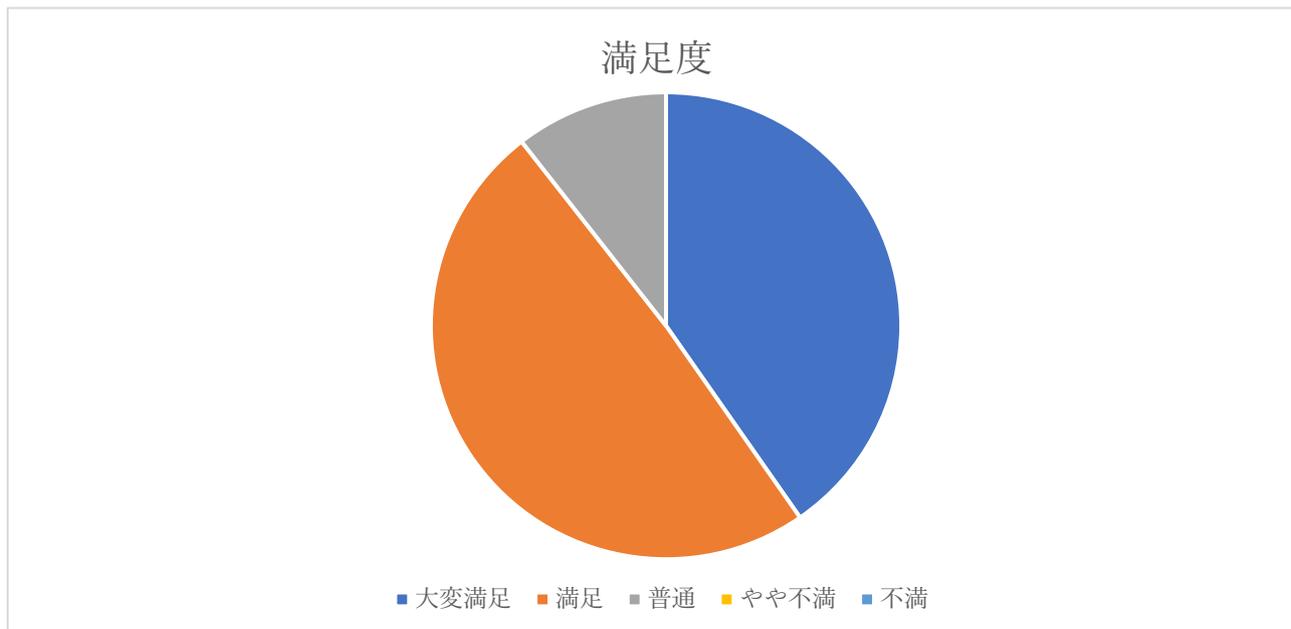
内訳

テーマ	人数
テーマ①【コロナ禍における余暇支援の実際から学ぶ】	57
テーマ②【危機介入における支援の実際から学ぶ】	48
テーマ③【多職種連携における支援会議（オンライン含む）の実際から学ぶ】	48

テーマ①【コロナ禍における余暇支援の実際から学ぶ】

質問1 動画配信研修の満足度を教えてください。

項目	人数	比率
1.大変満足	23	40%
2.満足	28	49%
3.普通	6	11%
4.やや不満	0	0%
5.不満	0	0%



質問2 動画配信研修を視聴して、事例提供者へご質問がありましたらご記入ください。

アイデアの引き出しを増やす為にはどのようなものを参考にするとう良いのでしょうか？
選択肢の幅はその後広がっていききましたか？
コロナ禍における外出の好事例があったら教えてほしい

質問3 動画配信研修を視聴して、支援者としてのご意見・ご感想をお願い致します。

<p>コロナ禍だから、しょうがないや出来ないなど、始めからあきらめていたこともあったのですが、この研修を視聴して、自分の力不足の言い訳になっていたかも？と反省させられました。出来るところからやってみよう!の気持ちで利用者さんと一緒に楽しみを増やしていこうと思いました。</p>
<p>『よか』と『余暇』の違いがわかりました。よかは、利用者さんの生活にとって必要不可欠なものだと思いますが、特に外出支援は、このコロナ禍において我慢すべきもの、第一優先ではないもの、になってしまっている方も多く(ご本人の希望というよりは制限されてしまっている)利用者さんの気持ちを尊重すべきなのか、常に狭間で悩んでいます この動画を拝聴して、少しでも室内で出来るよかも広げていきたいな、と考えています どうもありがとうございました</p>
<p>利用者の『よか』の見え方捉え方が一人一人違うため、より多くの事例を知りたいと思えました。視聴による仕事時間帯への負担や個人視聴にしても通信料金の負担も少なく有難く視聴しました。有難うございました。</p>
<p>コロナ感染当初は研修会の開催も限定的で正直日々の支援に困っていました。今後もオンライン形式でも定期的に研修会を開催していただけると助かります。日々の生活が変わった中で何がで</p>

きるのか、他の支援機関の実践報告なども今後は聞いていきたいです。研修会開催ありがとうございました。

利用者さんの中には適切なよか支援を受けずに成人されて通所施設を利用されている方がおり、新しいことがなかなか受け入れられずに不穏になられたり、手持ち無沙汰で性器いじりに没頭される方がいらっしゃいます。よか支援は幼い頃から始めて選択肢を増やすことが本当に大事なことでと実感しています。 コロナ禍で制限が多い生活になっていますが、コロナ禍だからこその活動の広がり(今まで選択肢にはなかったお店でのテイクアウト等)も少なからずあり、支援員の発想の柔軟性も求められているのかなと思います。

支援者会議を開催する際、その運営に日々悩んでいるので、大変勉強になりました。具体的でとてもわかりやすい内容で助かりました。ありがとうございました。

私は生活介護事業所で支援をしています。中々利用者の余暇をうまく見つけることが出来ず、困っていました。この動画を見て、要素を見つけて広げるという視点を学ぶことができたので、現場で活かしていきたいと思います。

コロナ禍に限らずですが、「よか支援のためのデータベース」のようなものを、関係者の投稿で作れたら、ステキだなと思います。今は各事業所で知恵や情報を寄せ集めて、その方にあった地域の資源を探して利用していると思いますが、その知恵や情報を、札幌市内全体で共有出来たら、さらに選択肢が広がるかもしれません。 その施設の良いところや、利用するためのポイント、さらに利用しやすくするためのアイデアなども載せられたら面白そうです。データベースを誰がどう作るのか、お金の出どころは？、データをどう管理するのか、誹謗中傷を AI などを利用して排除できるのか、店名などを載せても大丈夫なのか？、利用できる人の範囲は？、など、素人が考えても難しいことが山積みですが……。 まずは、札幌市内の公共施設（公園・体育館など）の利用しやすいところ集めなどから始まったらいいなと思います。例えば、公園のトイレは多目的トイレがあるのか、洋式トイレは？ 空いている時期は？など、公式ホームページでは情報が載っていなかったり、更新されていないと、行ってみたら使えなかった、ということを防ぐためにも、あったら助かる人、たくさんいるのではないのでしょうか？

コロナ禍における余暇の実態・過ごし方、余暇支援の方法について改めて考えるいい機会になりました。これからの支援につなげていければと思います。

よかについてわかりやすかったです。

大人にとっても子どもにとっても、余暇は心を落ち着かせたり、新しい発見があったり、挑戦があったりと、刺激にもなるものと考えています。お話の中で制約ということばがあり、まさにその通りだと感じました。余暇だけではなく、仕事でさえ制約が生れていて、利用者さんだけではなく、支援者にも余暇は大切だと感じています。アセスメントによる余暇の提供は大切ですが、バリエーションを広げていくなどの工夫をしていくためには、支援者の心のゆとりや経験なども必要になってくると感じました。

<p>短い時間で出来るよかや少し長い時間出来るよか等、よかのバリエーションを増やしていきたいと思いました。</p>
<p>余暇をよかとする考え方、行動援護の基本的なところが学べました</p>
<p>余暇（よか）について大変わかりやすい説明であった</p>
<p>就労支援 A 型では軽度な状態であっても基本を学んでいないと支援を行うことが大変な場面があります。経験の少ない職員や経験はある程度ある職員も基本を振り返ることがとても大切なことだと思っております。できる限り全員で同じ研修が受けられるような工夫が必要と感じております。共有できることによって日常業務に活かすことができ、定期的な職員会議では共通した認識にて会議を進めることができます。</p> <p>研修は、日常業務の範囲内で行い利用者の対応を優先しているので動画研修はとても助かります。ありがとうございます。</p>
<p>コロナ禍でのよかは制限等も多く、本当に難しいと思っておりますが、新たな選択肢も積極的に取り組んでいきたいと思いました。動画の中で紹介頂いたキラキラのテントのように、いまあるものでもアイデアを出して考えながら出来ることをやっていきたいと思いました。ご本人のアセスメントを改めてしっかりと行って、短い時間で出来るよかや長い時間出来るよか等、よかのバリエーションを増やしていきたいと思いました。</p>
<p>よかは楽しいことをするだけの時間、好きなものを用意できたらいいと思っておりましたが、いろんな時間の過ごし方がある、そのためにも本人のことを知らないといけないなと思いました。</p>
<p>コロナ禍により、外出などの制限で出来ること、出来ない事が増えたり、活動の中止も余儀なくされ、子供たちの残念そうな表情を見る事も多くなりました。その中でも、悪いことばかりではなく、新たな発見に繋がることもありました。今回、この様な動画配信を観ることにより、「よか」という言葉の意味を改めて理解し、その上で子供たちへの接し方の工夫の仕方、考え方を学ぶ事ができ今後の支援の基本を頭に置きつつ、一つひとつ考えて取り組みたいと思いました。</p>
<p>私は児童デイサービスで働いています。よか活動について毎日考えているつもりでしたが、デイサービス内で完結してしまっている事が殆どでした。本人が楽しんでくれているからと満足してしまい、他の活動場所ではどうなのか？という考えまで至っていませんでした。今回の研修の中で様々な方向から見たお話が聞ける事を楽しみにしています。</p>
<p>今後の支援に活かしたいと思います。</p>
<p>児童発達支援・放課後等デイサービスに勤務しています。今研修において「よか」が何故ひらがなであるのか、非常に参考になりました。私の上司である児発管は「余暇」は余った時間だから自由時間と記載する事…と連絡帳の記載に対し指摘をしますが、支援に関する「よか」の概念が学べてよかったです。</p>

「コロナ禍におけるよか支援の実際から学ぶ」を視聴させていただきました。これにより、基本事項の再確認、支援者の創意工夫、ご家庭や他事業所との協力・連携の必要性等について、改めて学ぶことができたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

コロナウィルスが感染拡大し、外出支援は本当にできなくなっていました。法人の中でも何もできなくなると頭を抱えていましたが、今回の動画を見て、よかの幅を広げるという視点を学ぶことができました。ありがとうございました。

余暇支援は同じことをやっていることが多く、どう広げたらいいかと迷っていましたが、アセスメントの視点が必要であることを学ぶことができました。実践につなげていけたらと思います。

重度の知的障害のある方は、自らの主張も少ない為、支援者側のアプローチが本当に大切だと思った。選択肢の幅を広げたり、こちらの働きかけで出来ることや興味や関心も広げられる為、新卒のスタッフにも伝えて行きたいと思いました。

よか支援のアセスメント方法について、より詳しく聞いてみたいと思いました。行動援護やいろいろな事業種による、よか支援の具体的実際のアイデアについてもより聞いてみたいと思いました

それぞれ方が持っている力や能力を踏まえながらも、興味関心事はもっと個々様々ですね。なので、提供できる余暇の選択も押しつけや無理強いとにならないよう留意しながら、本人もリラックスできるもの・楽しめるものを見つけることは本当に大変なことと思いました。

発語の無い方 絵で理解出来ない方 みなさん支援方法等 知りたいです。

コロナ禍での余暇提供は、どこの事業所でも喫緊の課題のように思われます。定期的な実践的な報告があると、とても参考になります。配信形式は参加しやすいので、今後も続けてほしいと思います。

貴重な動画配信ありがとうございました。

よかの時間の過ごし方を学んで、その人の脳のタイプを理解し見通しを持ってよかの活動をする大切さが特に勉強になりました。

本人のことを知ることで、理解することで活動内容を増やすことにつながるのかなと思いました。

個人の特性や興味から様々な活動を行っていくことの大切さを確認することができました。コロナ禍だから取り組むことになってしまったこと、取り組めたことを、確認して今後の活動に活かしていく機会としなければと思います。「これをしなければいけない」と支援者側が思い込んでいたことが、実は違ったといったことを現場では感じました。また、不穏につながる可能性から取り組むことに躊躇していたことに、取り組まざるを得なかったようなことも、、、災害や社会変動に対する時の支援にもつながることとも思いました。

コロナ禍において、外出支援の幅が狭まり、デメリットばかりに目を向けてしまっていました。テイクアウトによって今まで利用する機会がなかったところを利用できるなどメリットがあることに気付かされました。

よか=外出することに比重を置いていましたが、室内でできるイルミネーションのようなことも良いよかになると思いました。

よかを過ごすことの難しい方へのアプローチには、やはりアセスメントは欠かせないと改めて感じました。ありがとうございました。コロナ禍において、外出支援の幅が狭まり、デメリットばかりに目を向けてしまっていたのですが、テイクアウトによって今まで利用する機会がなかったところを利用できるなどメリットがあることに気付かされました。よか=外出することに比重を置いていましたが、室内でできるイルミネーションのようなことも良いよかになると思いました。よかを過ごすことの難しい方へのアプローチには、やはりアセスメントは欠かせないと改めて感じました。ありがとうございました。

例えば自ら行きたい所を決め、移動手段まで伝えてくれる利用者さんは余暇の部分充実されてて良いと思うのですが、なかなか自らでは行きたい所を伝える意思表示の難しい利用者さんに入る時には親御さんと相談しながら行き先決めたりしています。その際に本当に楽しんでくれるかな、余暇の充実になっているのかなと葛藤することが多いです。

カード提示等用いたり本人に選択できるよう試みていますが、ヘルパーの経験年数を重ねてもヘルパーや親の工ゴで本人の為になっていないのではないかと日々考えてしまいます。

余暇支援に満足できる支援を行いたいと改めて思いました。

コロナ禍で余暇支援の幅が制限され、どのような余暇を提供することができるか考える機会が非常に多くあり、現在も常に考え、探りながら支援しております。日々の支援の中で、「この児童にはきっと〇〇が好きだろう、この子は〇〇が好きははずだ」と決めつけてしまっている部分もあり、動画を視聴して、余暇を選択できるということは非常に大切であり、見るのが好きなだけであって乗るのは好きではないかもしれない、もしかしたら見るよりも触るのが好きなかもしれない、と改めて一人ひとりに配慮した余暇を考えることが大切だと感じました。凝り固まった考えだけでなく、色々な所にアンテナを張り巡らせて、一人ひとりにあった余暇を提供できるようにしていきたいと思います。

今回の動画を通して、余暇に対する認識が変わりました。今まで余暇は自由時間（好きな時間）というイメージでしたが、確かにこの時間で家事をしたり、ちょっとした活動をしていたので、これも「よか」のひとつと知りました。

私の勤める事業所でも、この時間を使って洗濯をしたり、好きな音楽を聴いたりゲームをする利用者の方はいますし、「よかを提供する」というのは必ずしもドライブに出たりレクリエーションを提供したりするに限らないと知りました。

今夜の検討会でも様々な「よか」について知識を深めていけたらと思います。

コロナ禍で行先が制限されたりし、希望通りの活動ができないことが多い中で、新たな発見も沢山ありました。マスクできるんだ!等、色々気づくことが多かったです。

とても分かりやすかったです。

<p>研修ありがとうございます。おがる坂井さんの『できないじゃく、できるを探す』は、本当にその通りだと思いました。</p> <p>環境も利用者さんも毎日毎日同じコンディションではないので要素が上げられる支援を考えて行く事を出来るようにしていきたいです。</p>
<p>余暇支援は非常に大事だと痛感しています。</p>
<p>大変参考になりました。生涯を通じて重要な「余暇」の時間について、どれだけご本人の視点にたって活動を上げられるか、これからも考えていきたいとおもいます。ありがとうございました。</p>
<p>「私たちとは物の見え方が違う」という説明がありましたが具体的にどのように違うかを知りたいと思いました。病気の特性によりいろいろな見え方の特徴などなあると思いますが、その見え方についての勉強をもっとしたいと感じました。今回は提案の仕方について知ることが出来て勉強になりました。ありがとうございました。オンラインの勉強は時間に縛られることなく勉強できるのでとても助かります。これからも、よろしくお願い致します。</p>
<p>行動が制限される中支援者の努力、工夫する事が大切だと感じました。</p>
<p>コロナ禍で思うような外出ができず、お困りの方が多い中で、【余暇】の捉え方を考え直すことで、実は余暇支援の幅を広げ、充実してもらうチャンスになるのではないかと思った。今こそ、再アセスメントをして、支援を見直していきたい。</p>
<p>支援者として、自閉症の子の親として生活しています。余暇活動の重要性について、いつも職場で話をしています。わかりやすい内容でしたので、職員と情報共有したいと思いました。</p>
<p>このコロナ禍で制限されてしまい、「できない！！」と思い込んでしまっていたと思いました。改めて本人の特性や関わる支援員、本人の好きな物のバリエーションを増やすなどの対応してみるなど、アイデア次第ということに気づきました。日常のコロナ感染症予防対策と合わせて余暇の支援方法を考えてみたいと思いました。</p>
<p>放課後等デイサービスで仕事してます。毎日同じことの繰り返しになりがちです。日々今日は何やろうかと悩みます。一生懸命考えてもヒットしなかったり、毎日いくつものポケットを考えていないと何もしないで終わってしまいます。バリエーション大事ですね</p>
<p>自身は就労継続支援の通所事業所で支援をしており、利用者の“よか”について大きく関わることはありません。しかし、利用者の生活に関わる支援者の皆様が日々、数秒数分のよかについても思案提案実践されていることを実感いたしました。これからは自宅での生活についても利用者へアドバイスしていきたいと思いました。</p>
<p>余暇は睡眠、仕事以外の時間を指すということで、人生の中でもかなり多くの時間を割いているんだなと思いました。また、その人の人生の豊かさにも影響すると感じました。そのような重要性を併せ持っていることを忘れずに、余暇の支援に努めていきたいと思います。障がいがあつて</p>

も楽しめる工夫等を、関連事業所から情報収集しながら更なる余暇の充実を図っていきたいです。

とても参考になる動画でした。このコロナ過で支援者も、行き先、内容など多く悩みました。何か1つでもと色々なサイトを参考にしましたが、生きづまってしまいました。

多くの余暇を楽しんで頂くことが利用者様のためだと思っておりますので、市の方でも情報提供を多くしていただけたらと思います。

大変勉強になりました。

実際に行われているアセスメントの事例、視覚的支援などとても参考になった。御本人の意思でより良い選択ができるよう工夫していきたい。

コロナ禍で行動が制限されるなかで、いかに感染対策を講じながら、利用者に満足してもらえるサービスを提供できるかととても難しいと感じている。

よかを過ごすのは誰しもすることで自分の過ごし方を参考にすることも一つの考え方なのではと思いました。ただ、当然人それぞれなので利用者様の好きな事や興味のあるものを十分に理解して、支援に繋げることが大切だと思いました。

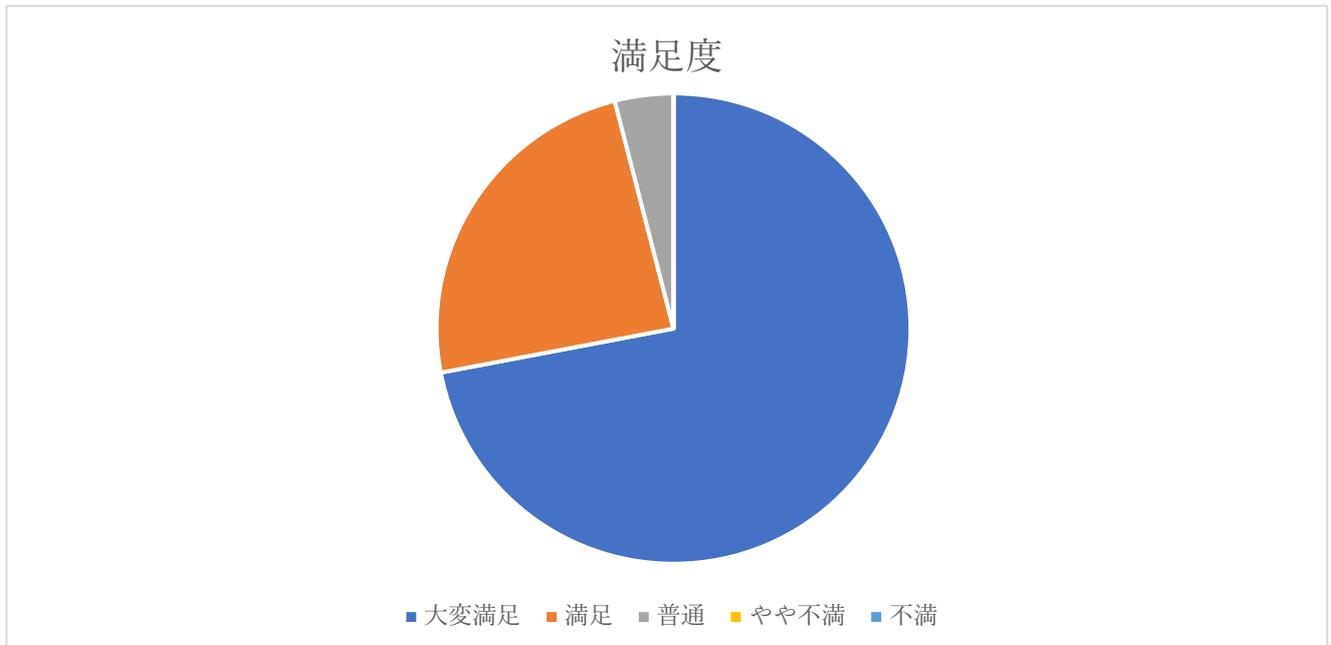
よかを過ごすのは誰しもすることで自分の過ごし方を参考にすることも一つの考え方なのではと思いました。ただ、当然人それぞれなのでその人にあった支援方法は考えなければならないと思います。そのために事前にアセスメントを取ることが重要だと感じました

小規模事業所では今回の余暇支援は可能だと思いましたが、利用者数が増えるほどにより工夫が必要だと思いました。

テーマ②【危機介入における支援の実際から学ぶ】

質問1 動画配信研修の満足度を教えてください。

項目	人数	比率
1.大変満足	36	72%
2.満足	12	24%
3.普通	2	4%
4.やや不満	0	0%
5.不満	0	0%



質問2 動画配信研修を視聴して、事例提供者へご質問がありましたらご記入ください。

<p>アセスメントではどのようなことを調べればいいでしょうか？</p>
<p>2021年9月から11月にかけての、ひなたさんでのチーム構成・人数を知りたいです。（Aさんの支援中の様子、ご両親のインタビュー、とても興味深く学ばせていただくことがたくさんありました。ありがとうございます。）</p>
<p>活動（勉強、課題）→余暇で過ごしたいのですが、『余暇』を優先する利用者さんは、どのように支援したら良いですか？カード、声かけはしています。利用者さんは、自分の思った事を言ってくるスタッフを探しているのか、色々なスタッフに『お散歩いく』など聞きまわります。</p>
<p>中学2年の夏から激しい行動が見られたとのことでしたが、そのきっかけとなったことにはどのようなことが考えられましたか。特に父親に他害、さらに母親へとなったことも気になりました。</p>
<p>現在もパニックになることがあるとの事でしたが、色々なサービスを受ける事でお子さんの具体的な変化はありましたか？また、お子さんの対応についての具体的なアドバイスなどは、どういった形で受けられていますか？</p>
<p>直接相談支援の担当者やデイサービスの方から話を受けられていますか？</p>
<p>現在、デイサービスでお仕事させて頂いておりますが、コロナ禍で担当者会議やケア会議ができず…送迎時にはなかなか深く伝えられず、電話やメールで当事業所はお伝えしておりますが、保護者様としてはどういった形で伝えて欲しいとかありましたら、教えて頂きたいです。</p>
<p>事例の利用者様がひなたさんで獲得した支援が、その後どのくらい家庭や他事業所に般化する事ができ、どの程度ご本人が安心して過ごす事のできる時間が増えたのかお聞きしたいです。</p>

どうしてキューを使っていこうという判断になったのか教えていただけたらうれしいです。また、ご家庭や今まで利用していた事業所でのやり方をどの程度まで変えていくべきなのかもわかればうれしいです。

質問3 動画配信研修を視聴して、支援者としてのご意見・ご感想をお願い致します。

保護者の方がお話しされている場面が、とても切実で、大変さと困り感が伝わってきました。自分達で何とかしなきゃイケない、でもどうして良いのかわからない、そこからのスタートで、色んな人との出会いがあり、頼っても大丈夫なんだと思い、支援者を信じて、短期でここまでみんなが笑顔になれるなんて、感動でした。私もこんな支援者になれる様に頑張りたいです。

強度行動障害を持つお子さんに対し統一された支援の大切さは理解できます。しかし、それを般化させる難しさは計り知れないものだと思います。上手く連携出来る、してくれる事業所との関係作りもより良い支援に繋がると思います。(全ての事業所が協力的では無いところが難しく悩ましいところですが…)

ひとつのケースとしての特性の活かし方や、チーム支援の見える化された内容に、軽度と判断されている場合においても活かされる捉え方が出来たと思います。欲を言えば、どのように繋げていったのかをもう少し詳しく知りたかったです。有難うございました。

短期間に集中して支援にあたる、般化を図るという考え方をこれまでもっておらず、大変勉強になりました。どうしても問題行動に目がいきがちですが、できることもきちんと評価することはとても重要だと感じました。

親御さんが孤立して絶望してしまうことなくうまく適切な支援に繋がって本当に良かったと思いました。 いろんな親御さんがいらっしゃいますが、しっかりと向き合っていて育ててこられた親御さんに対するリスペクトは忘れてはいけません。 トランポリンの場面で「ただいま」に対して支援者が「考え中」と応えていたのが、意味不明ながらも築きあげられた二人の関係性の中では意味のあるいつものやり取りなんだろうなと微笑ましく思いました。 見通しを持つための視覚支援によって声掛けなしで自発的に動かれていて、安心して過ごされていることが伝わってきました。

何が本人にとって有効なのか、本人の特性を知り、本人とコミュニケーションを図り、本人に合った支援をすることで落ち着いた行動につながると感じました。

ご家族の気持ちを聞けるのは大変貴重なことでした。

他害が頻回になって、学校に話をし、相談支援事業所に相談するまで半年以上、初めての関係者会議がその5か月後、合わせて1年という時間が、思春期のご本人とご家族にとって、本当につらい時間だったろうなと感じました。 特別支援学校に通っているとのことですが、学校には児童生徒の他害の度合いが増した時の相談対応マニュアル的なものは、ないのでしょうか？「地域の相談支援事業所に相談してください」で終わりなのではないでしょうか？ ご家族の申し出が要だとしても、学校が情報提供だけでなく、学校外の資源へつないでいく役割を、もう少し担って来てほしいので

は?と思いました。あるいは、虐待かも?と思った時に「虐待相談窓口」があるように、「行動障害かも?」と思った人が通報(?)できる「相談窓口」があって、そこから情報提供や、「次、こうしてください」的な具体的な指示があったら、年度替わりの時間の口スはもう少し少なかったのだろうか?とったりしました。そうした窓口がないことで、ご本人のつらさの発露としての他害や行動障害が、ご本人への虐待というところにつながってしまっている場合も、もしかしたらあるのかもしれないなあとと思いました。非常に難しいことを承知で書きますが、年度替わり前後の「駆け込み寺」的な窓口もあったら助かる人はたくさんいるだろうなとも思いました。

来月から行動援護が中心となる事業所へ転職します。オホーツク管内では行動援護がメインの事業所は、ほとんどありません。今後、研修等を通して色々な知識等を付けていきたいです。これからも、よろしくお願いします。

動画もあり、具体的で理解しやすかったです。ご本人やご家族を支援させていただくに当たり、アセスメントの大切さ、ご本人を理解していくこと、チームワークの大切さを改めて実感しました。私自身、相談支援として幼児期から関わらせてもらっていますが、幼児期からの支援の大切さを改めて考えさせられました。コロナで関係機関との連携もままならない状況ですが、ネットワークや関係作りは非常に大切だと感じました。

実際の事例を通してのお話、当事者のお話、大変わかりやすく、勉強になりました。当事者の思いと支援する側の思い、実際の動画を通しての内容だったのでイメージしやすかったです。

誰から見て問題行動なのか?本人の特性に配慮した個別化された支援の必要性 家庭内での状況対応課題が両親の動画で状況対応が把握しやすかった。適切な時期に適切な支援を提供できる関係諸機関の情報の共有ネットワークの構築強化の必要性を痛切に感じた

ご両親へのインタビューがとても印象的でした。ご本人の特性の配慮、チームでの支援が本当に重要なことだと感じました。

就労継続A型になります。ここへ通う事前には面接が行われます。大半はご本人のみのケースが多く情報が不足しているケースが多々あります。ここでは皆さん一緒に作業を行うことが一般的な職場です。発達行動障害をお持ちの方は、ご本人も一緒に働く利用者も共に悩むことが良くあります。個別化をはかりにくい場になっております。職員の知識、情報として、できる限りの収集を行うためにこうした研修を共有できるようにしております。

今回は家族の悩みや変化、ご本人の実際の動きや対応を見ることができ、職場内では起きていない事であっても考え方や捉え方には共有できる基本となるものがあったと思います。それをもとに職員間で検討も出来ると考えております。ありがとうございます。

問題行動にだけ視点を当てるのではなく、本人の特性に視点を当て支援を考えていくという部分に感動しました。新たな気づきができてよかったです。

ご両親へのインタビューがとても印象的でした。特性に配慮した支援を、支援者、ご家族、関係機関等のチームで行っていくことが本当に重要なことだと感じました。実際に自分が行っている支援のひ

とつひとつが、ご本人の特性に配慮した支援が出来ているかを改めて考えながら支援を行っていきたいと思いました。

ひなたさんがチームで一丸となって支援に当たられている姿勢が素晴らしいと思いました。

行動障害のある方への介入方法が大変参考になりました。特性の把握から、把握した特性をいかにして支援に活かすのかがわかりやすく（特性を活かしたスケジュールとワークシステム）、また介入のポイントに対していかにアプローチするのか（コミュニケーション、表出の強化）が参考になりました。行動障害の予防として、児童期にしっかりしたコミュニケーション手段を確立するという点にも共感しました。

文章や表の他に実際に行われている動画での説明があったので、目で見ること理解を深める事が出来て良かったです。今後の支援に繋げていける様に日々頑張りたいと思います。この度はありがとうございました。

Aさんのご家族によるインタビューは非常に心に刺さる内容だと思いました。支援者として理解があるからこそ対応できる部分と、そうではない方（近隣住民の問題）に迷惑をかけまいとする姿に、国政として支援における環境が不十分だと感じます。その中で「般化」はまさに現場にいる支援者の賜物です。複数の事業を見て参りましたが、関係機関と一切連携しない施設も現存します。どうか、この動画から連携を大切にする事業所の発展に繋がればと思いました。Aさんのラーメンやマクドナルドを召し上がる姿はほっこりさせられます。

アセスメント、本人の特性に基づいた支援等の基本が大切であることの再確認ができました。困り感から支援までのタイムラグがやはり課題であり、合わせて支援にかかわる多くの機関や支援者、保護者等の障害特性や支援理論の理解が進むような取り組みの大切さを感じました。「強度行動障害に対してどうするか」とともに「強度行動障害にならないで済むにはどうするか」を広めていく支援体制を整備して頂ければと思います。特に、児童期は保護者の対応が要になると思いますので、困ってからでなく困る前に知っておいて欲しいことをアピールできたらと思いました。

保護者の方の気持ちや大変さなど、直接具体的に聞く機会が少ない為、とても貴重に感じました。どうしても家庭だけでは子供も親も気持ちがパンクしてしまうのが伝わりました。自分の兄も重度の知的障害と全盲の重複障害者の為、兄がパニックになり家の中がめちゃくちゃになった際に両親もどうしたらよいのか分からず押さえつけることしかできない状況の時もありました。色々なサービスが現在はあるので、同じ思いをしている方に広げていきたいです。

ひなたさんの取り組みは素晴らしいと思います。行動障がい激しいケースの場合は、他事業所さんには敬遠されがちかと思います。積極的に取り組んでいる事業所に対しては、札幌市さんからも報酬や表彰等の形でフォローする等を考えてもいいのではと思います。また、より行動障がい悪化した場合について、市内の施設入所等の受け入れが難しく、市外や遠隔地での調整が多いということもよく聞きます。札幌市内で行動援護や生活介護や施設入所や相談支援等で、強度行動障がいがあっても

<p>札幌市内に住みながら支援を受けられる体制を作っていくためには、どうしていけば良いのかを、札幌市さんを中心として議論を進めていく必要があるように思いました。</p>
<p>実際の様子を動画で見ることができて、ご本人の動作がスムーズなことに驚きました。本人の受け止める力を踏まえた支援の姿や工夫の内容がとても参考になりました。</p>
<p>支援された方々 大変お疲れ様でした。これからも、頑張ってください。</p>
<p>簡易的なアセスメントから特性面の情報を集め、支援の根拠とするお話が参考になりました。根拠をもって支援することが非常に大切であることを、あらためて認識させていただきました。ありがとうございました。</p>
<p>保護者の方からのご意見を聞いたり、支援の場面を見せて頂くことで、今どのように児童に働きかけていくかを考えさせられました。</p> <p>思春期に行動障害が見られる方も多く、問題行動に目を向けるのではなく、その方のできることを確認して支援することで、できることの幅が広がっていくのだと思いました。</p> <p>何度も試行錯誤しながらの支援になると思いますが、その方にとってより良い支援にしていく為の努力を惜しまず、仮説検証をチームで行なっていきたいと思えます。</p>
<p>本人の特性に合わせて視覚的な支援の有効性をとても感じることができました。</p> <p>参考にさせていただきます。</p>
<p>貴重な動画配信ありがとうございました。</p> <p>問題行動ばかりに焦点をあてるのではなくご本人の特性を整理し、把握出来る情報を集め個別化された支援を組み立てることの大切さがとても勉強になりました。</p> <p>ご本人に見通しをもって活動してもらうこと、明確にわかる構造化された活動、場所などの提示をすることはとても大切なこと、特性に配慮した支援を考えるのは重要な事だとわかりました。</p>
<p>問題行動に視点を当てるのではなく特性を生かした支援をチームですることの大切さを見せていただきました。</p>
<p>当事者の気持ちをどれだけ理解することができるのか、出来ているのかが日々の療育の中で支援者側の課題になっているので、多職種のチームで考えていける環境がとても大切なんだと思いました。ありがとうございました。</p>
<p>本人の生活をより良いものとなるためにどうしてゆくのが良いのか、支援者の経験、知識、なぜそうするのかの根拠、支援する人皆が理解し、関わる事が大切なことの一つと感じました。</p>
<p>行動援護のサービス提供では、重度の利用者様は事例でも言われていたように活動に制限をかけざる負えない現状があると思います。事例のように支援方法で解決できれば良いのですが、それができない場合でも、公共の場でもある程度の発声等を気にしなくても良い社会になっていく事を望みます。</p>
<p>見ているだけで泣けてきました。私は就労 A で働いています。利用者のいろいろな特性に悩みながら日々支援していますが、もっといろんな工夫をしていかねばならないと考え直すいい機会になりました。利用者家族とも、もっとコミュニケーションを取り思いを聞き取る大切さも学びました。とても</p>

<p>勉強になり何度か巻き戻して見直させていただきました。本当にありがとうございます。事業所同士の情報交換の大切さも知ることが出来ました。本当にありがとうございます。</p>
<p>支援者として、自閉症の子を持つ親として生活しています。動画での説明がわかりやすかったです。アセスメントと統一した支援の大切さ、再確認しました。</p>
<p>放課後等デイサービスで仕事してます。保護者様の苦悩を聞き取り取り組んだ支援でとても分かりやすい支援の動画でした。</p> <p>行動障害のある方への支援にとっても役に立つ動画であったと思います。視聴ギリギリまで繰り返し見たいと思います。そして職場のこれからの支援に役立てるため何とかこの動画を頂けないかなと思いました。</p>
<p>行動障害のある自閉症の方の日常を見ることはなく、子供の学校に同じような障害の子がいたことを思い出しました。担当の先生たちの支援の様子などは見ていましたが、今回の研修のようなリアルな親御様の声や、当事者の日々の様子などを知ることが出来て大変参考になりました。研修の動画に協力していただいたご家族様には感謝しかありません。ありがとうございました。</p>
<p>悩まれてるご家族の相談支援が早期に対応できる様に幼年期時点から、「ちょっとした相談ができる窓口が身近にあるんだよ」と知ってもらえる工夫が必要なんだと思いました。</p> <p>早ければ早いほど問題行動を未然に防ぎ、本人にとって過ごしやすく楽しく生活を送れる環境を周りからサポートしてあげるのがとても大事だと、本人の特性のアセスメントから本人にマッチした方法の具体例を知れて参考になりました。</p>
<p>問題行動ばかりに目が行きがちですが、ご本人の行動の裏にある気持ちを大切にしたり、汲み取ることが大事だと思います。また、ご本人の強みをより多く発見し、支援に活かしていくことが大切だと思いました。ご家族がご本人のことを大切に思う気持ちが、すごくよく伝わってきました。ご本人とご家族の頑張りが、今回の動画にあるような前向きな姿へとつながっていったと思います。</p>
<p>重度知的障害の人の支援について、具体的な支援策が動画を交えて解説しており、とても参考になった。</p>
<p>今の事業所では経験のない事例でした。一番感じたことは、他事業所との協力がとても大事だという事。事業所だけで考えるのではなく、相談し協力していただくことが、良いサービスにもつながり、利用者様が満足していただけるサービスに繋がっていくことを改めて勉強させていただきました。</p> <p>このような事例をもっと多く拝見したく強く思います。</p> <p>映像で拝見すると本当に勉強になります。言葉では伝わらないものがあると思います。</p>
<p>大変勉強になりました。</p>
<p>ご家族のお話に胸の詰まる思いでした。日々の支援をチームで見直していきたい。素晴らしい内容でした。ありがとうございます。</p>
<p>問題行動とされている行為は、そこに着目するのではなく、本人の特性を出来るだけ洗い出し、整理することがまず重要である。そめ上で本人の特性に配慮した個別の支援計画を立てる必要がある。ま</p>

た実際に取り組む際は個々人ではなく、あくまでもチームで動くことが大事であると改めて感じました。

問題行動とされている行為は、そこに着目するのではなく、本人の特性を出来るだけ洗い出し、整理することがまず重要である。その上で本人の特性に配慮した個別の支援計画を立てる必要がある。また実際に取り組む際は個々人ではなく、あくまでもチームで動くことが大事であると改めて感じました。そしてある程度確立した支援は、ご家族や他事業でも統一した支援を行えるようにすることがより重要だと思いました。

とても参考になりました。特にキューの使い方や食事提供場面などは、試してみようと思います。

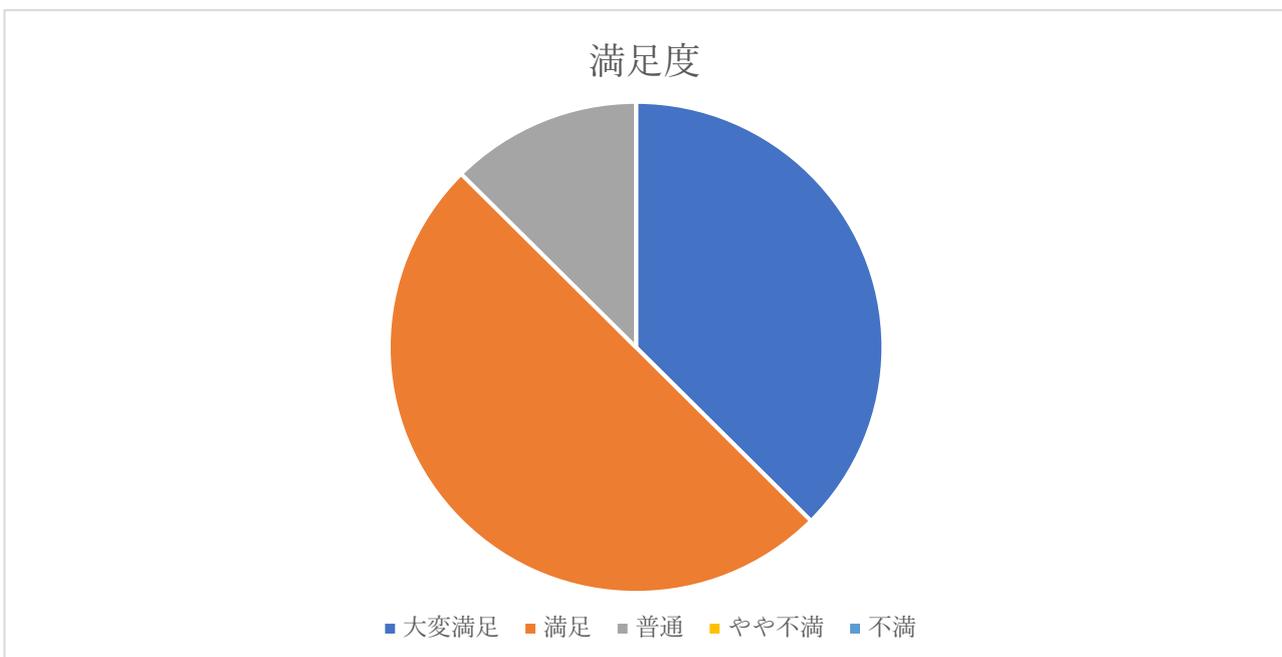
家族の葛藤にとっても胸が痛くなりました。ただ支援によってこんなに変わっていくことができる、希望にもなりました。早い段階での支援がいかに重要か勉強になりました。

具体的な支援の様子を見ることができ、大変勉強になりました。知識や経験が不足している事業所に般化できる専門的な事業所の存在はとても大きいと感じます。

テーマ③【多職種連携における支援会議（オンライン含む）の実際から学ぶ】

質問1 動画配信研修の満足度を教えてください。

項目	人数	比率
1.大変満足	18	38%
2.満足	24	50%
3.普通	6	13%
4.やや不満	0	0%
5.不満	0	0%



質問2 動画配信研修を視聴して、事例提供者へご質問がありましたらご記入ください。

ばでい様から見て、オンラインと実際にあったの会議ではどちらの方が話しやすいですか？ 他事業所とのコミュニケーションを取る上でオンラインでのコツなんかあれば教えてください
支援者会議には、ばでいのスタッフ、経験年数の違う2名が参加するとのことですが、立場役割的な組み合わせはどんなものがありますか？（例えば、管理者とヘルパー、ヘルパー2名など）
当方、入所・グループホーム・生活介護・就労B・相談と同一法人内で完結してしまっている利用者の方が多く、支援会議等が形骸化してしまっています。支援会議やアセスメント等の重要性を伝えていくにはどのような取り組みがいいのでしょうか。
支援会議のメモや共有するのに適したアプリやツールがあれば教えて欲しいです！

質問3 動画配信研修を視聴して、支援者としてのご意見・ご感想をお願い致します。

会議では、コーディネート的重要性を感じています。いろいろな方向性を考えるために少し的外れな話しへ展開する事もあり、調整役が必要と感じることが意外とあります。 オンライン会議の前後でオンライン交流会を行う呼びかけをすることで交流が増えてくるのではないかな？と思いました。
支援者会議を開催する際、その運営に日々悩んでいるので、大変勉強になりました。具体的でとてもわかりやすい内容で助かりました。ありがとうございました。
複数の事業所を利用されている場合、それぞれの場所で異なるペルソナを演じられていることが判明して驚いたことがあります。 ご家庭ではまた違った一面が見られることも多く、関係各所で情報共有してその方を多角的に捉えて理解を深めることは大切ですよ。
支援の具体的な映像もありわかりやすかった。3本とも経験の浅い職員にとっても参考になると思う
チームで支援を行うための一連の流れを学ぶことができました。一つ一つコツやテクニックがあるんだなと思い、支援会議に活かしていきたいと思いました。
支援会議がズームになった時の工夫、参加しやすくはなったが、意見の出しやすい方法も考えて行かないといけないことなど勉強になりました。ありがとうございます。
チーム支援のための支援会議において、「共有しやすい統一した記録」を作っていくための過程が知りたいと思いました。 また、支援する方によって内容は違ってくるのはもちろんですが、支援のための基本は共有するためのものなので、各職種による視点の違いがわかるような、テンプレート的なものを共有して、必要な時に探せるサイトがあるといいなと思いました。 それぞれが労力をかけて作成していると思うので、利用するだけの事業所、提供するだけの事業所に二極化しないような仕組みもあるといいなと思います。 オンライン会議の前後の時間に、雰囲気づくりやちょっとした情報交流ができるようにする、というのは非常に大切だなあと思います。会議前に音声画像確認をするために早めに入室することを求められることがありますが、どうせなら、

15～20分枠くらいとって、音声画像確認と同時に、交流できればいいのに、と思います。たとえば、入室するときに、チャット欄に、「〇〇事業所の△△です。よろしくお願いします。」と自分で入力してみるから始めてみる。それに慣れたら、zoomであればダイレクトにチャットを送れるので、「会議開始までの間にダイレクトチャットOKです」と入力しておいた人同士で、チャットでやり取りができるようになったらいいなあと思ったりします。講演会や研修で、終了時間の後、「クールダウンタイム（名前が違うかもしれませんが）」として、30分とか1時間、zoomがつながったままになっていて、時間がある人、残った人だけでお話しする、というのもあるそうです。支援会議だと皆さんお忙しいので、頻繁にできないことかもしれませんが、やってみたいなあと思っています。やってみたことがある方がいたらどうだったかを聞いてみたいです。

ヘルパー事業所の視点というところが自分ではわからない部分だったので勉強になりました。多職種との連携は人が違えば内容も違い、同じことがないため、難しいなと感じます・・・

多職種連携によるチーム支援が利用者が「地域の中で安心してハッピーに生活をする」同じ方針に沿って統一した支援をしていく。このことが、とても重要なことで必要なことなのに実現されていない現実である。もっともっと当たり前前にチーム支援が展開できる日が来ることを切に願う。素晴らしい報告でした

コロナになってから、支援会議がほとんどできない状況にあります。さらに、自分の職場にはオンラインで会議できる環境が整ってなく、苦慮している部分でもあります。現在は、緊急性の高いケースのみ実施していますが、会うことが叶わない分、田舎なので顔が見える存在であることを活かし、電話等で情報共有をしています。会議の雰囲気作りについては、かなり共感できました。私は児童の相談支援をしているのですが、初回相談では特に保護者に形式的に聞いている時よりも、相談が終わってから雑談している時の方が家庭での様子を教えていただけたたり、実はこんな悩みがあって・・・というような話をしていただけることもあります。支援会議でも同様で、その雑談の中からその人の考えや特技などを知ることができたり、インフォーマルなところを知る機会にもなっています。大変貴重な機会となりました。ありがとうございました。

多人数で支援会議を行った際に、話が脱線してしまうということは実際に多くあることだと思いました。着地点を決めて支援会議を行っていくこと等、参考にさせて頂きたい話が多く、実際に取り組んでいこうと思いました。二人での支援会議の参加についても、経験の違いがあってもそこが強みになることがあると分かったので、今後そういったことを考えながら支援会議に参加していきたいと思いました

オンラインで支援会議をしたことがなかったので勉強になりました。

支援会議などにおける情報や視点の共有を効率的に行い、実りあるものにするためのヒントを得ることができました。本動画で示されたポイントを意識し、今後の会議に活かしたいと考えています。

<p>多職種で連携する際のポイントがわかりやすかったです。</p>
<p>支援会議について、今はオンライン等での会議は主流になりつつありますが、どの会議でも道筋がズレてしまったり、本題から遠ざかり今話すべき内容ではないなど、参加する度に思うことは多々ありました。動画を視聴して、事前に話すことの内容、準備、事前用意がなにより大切なんだと改めて実感させていただきました。</p>
<p>一緒に働いている職員に共有したいと思いました。</p>
<p>多職種連携について非常に賛成です。しかし、通常業務においてオンラインとあってもカバーしきれないのが現場の状態です。社会はノー残業デーなど効率化を謳う傾向ですが福祉にそれは見当違いです。加えて、市町村での支援に対する解釈または事業所によって大きく変わってくると思います。ですので、コロナ禍におけるオンラインは仕方のない事なのかもしれませんが、可能であれば関係機関同士で支援者の往来が定期的にもあれば、より詳細を掴むことが出来るのではないのでしょうか。</p>
<p>支援会議の進め方のコツを学びました。ヘルパー事業所の場合、オンライン対応ができていなくて、オンライン会議に参加できない場合が多いと思います。例えば、次年度もこのような行動援護フォローアップ研修が継続されるのであれば、オンライン会議やデジタルグッズ等を活用した支援等の実際を、OJTで教えてもらうような実践研修を考えてもらえると嬉しいです</p>
<p>コロナ以前の顔合わせができた時期と違って、オンライン形式等で開催する場合はなおのこと事前準備や普段の情報整理の積み重ね、工夫が必要なんですね。お互いに打ち解けて、内容ある話ができるようになるまで、かなり時間必要ですね。理解できました。</p>
<p>コロナ禍の当初は、支援会議の中止や延期が続き、なかなか他機関連携がうまくいかなかった時期があったと記憶しています。今はオンラインが浸透し、集合型の支援会議の時よりも参加に対するハードルは低くなったと感じています。しかし、集合型の支援会議には支援者の交流という良さがありました。以前のように集合での支援者会議ができるようコロナの終結を願うばかりです。</p>
<p>大変参考になりました。</p>
<p>各事業所・個々の支援者の障害理解や支援方法の理解度を図っていくことの難しさがある。障害理解や支援方法について、新しいことや基礎的なことを日々学んでいるところと、今まで通りでいい、他所は他所といった考えで運営している法人もある。利用者側からは、ある程度の質には目をつぶってでも利用していかねばならない現状で、社会として支援の質を上げていく取り組みをどう行っていくのか、課題なのではないか。ある程度の客観的な指標のようなものが必要ではないかと思うことがある。</p>
<p>支援会議のイメージはやはり「何か問題があったから行く」というイメージが強く、新しく何かが出来た、出来るようにしていきたいから会議を開いて共有するという考えには至らず…しかし、今回の動画配信を視聴して考え方が変わりました。オンラインであれば時間の都合が付けば移動せずに会議を開けるので積極的に行っていきたいと思います。</p>

<p>アセスメントの大切さと、アセスメント結果を支援に結びつけるスキルの必要性を改めて感じました。本人が落ち着いたことで満足せず、本人の表出コミュニケーションを伸ばす取り組みをするなど、より一層本人が過ごしやすいようになるための支援を続けていること、素晴らしいなと思います。いつかまた、本人と家族がお互いに心からリラックスをして過ごせたり、一緒に好きな場所に出かけられる日が来ると良いなと、願っております。</p>
<p>コロナ禍で支援会議がオンライン開催になったことで、参加のしやすさはアップしましたが、交流のしにくさは出ていますと私も感じていました。研修も同様に感じています。支援をしていく上で、地域での仲間が増えていくと良いなと思います。</p>
<p>オンライン会議などは便利な部分も多いですが、機器の使い方など難しい部分も多いですね。より良いオンライン会議ができるように他事業所などとの情報交流会などに参加できればと思います。</p>
<p>支援会議の重要性がわかりました。</p>
<p>利用者の例が2つあり、わかりやすかったです。 Bさんのケースのように現状のニーズが明確では無い場合、ヘルパーでの様子を会議に持ってきて情報を共有しており、現場の意見も反映している所が多職種連携の最も大切な所だと思いました。</p>
<p>多職種連携の支援会議の大切さがチームワークの良い支援につながる事をあらためて思いました。</p>
<p>貴重な動画配信ありがとうございました。支援会議には様々な工夫がされていて、とても分かりやすかったです。特に会議の前後の時間が交流に繋がり、雰囲気作りになっていて意見を出しやすく前向きな発言になることがよくわかりました。 オンライン会議になってからは、移動時間がかからず、出席しやすくなるが、会議前後の雰囲気作りが難しいことがわかり、色々なことがわかりとても良かったです。</p>
<p>行動援護で、事業所外の場面を利用者さんと連れ立って活動するときの様々な支援を学ぶことが出来ました。少しでも当事者の方が地域で楽しく過ごせるように、こちらの引き出しもどんどん増やしていきたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>支援会議の招集の指揮を執る人、どんな時に支援会議を行うか、どんなケースの場合支援会議を開くか、支援介護を行いたいと感じた事業所はどんな手順で会議の招集をするかなど知りたいと思いました。</p>
<p>他職種連携における支援会議についてでしたが、毎日に職員間でのミーティングにも言える事かなと感じました。何について話していたのか、話が脱線してしまうことがあるため、出席する職員が同じ意識で参加することでより意味のある時間になるのではないかと感じました。</p>
<p>オンライン研修のメリットデメリットには共感する部分が多かったです。会議に参加はし易くなりましたが、その後の交流や雑談等の場面はめっきり少なくなりました。そういった部分を補えるような交流の工夫など、今回の研修でヒントが得られたら良いと思います。宜しく願いいたします。</p>

短い時間ですが、要点がとてもわかりやすく、試聴しやすかったです。自分の支援を振り返ることができました。このような機会をもうけていただき、ありがとうございました。

支援会議、オンラインではまだ行ったことがないので、参考になりました。支援会議には支援者側で参加したり、保護者の立場で参加することもあります。会議の持ち方なども、改めて考えさせられました。

放課後等デイサービスで仕事しています。支援者会議には何度か参加しております。以前は直接顔をあわせて話し合いを行っていましたが、コロナと言うこともありオンラインが多くなりました。直接顔を合わせていた頃は研修を一緒に行ったりコミュニケーションをとることが出来ていた為か活発な意見がなされていたように思います。オンラインは移動が無いので参加する回数は増えましたが、中々思ったことが伝えられずモヤモヤが残ってしまってます。顔はお互いに見えているのですが、コミュニケーション不足でしょうか？大事な部分が抜けてしまっているような意見交換に思えてしまっています。ここの部分聞きたかったねが
直接の支援会議の時は追いかけて聞けてました。早くコロナが終息し利用者様に関わっている方々と連携して支援していきたいですね講演有り難うございました。

会議の進行上のリアルな悩みなどが皆さん同じなんだなあと思いました。講師の方の飾らないお話の仕方も耳に入りやすかったです。今後の職員会議や支援会議時に参考にさせて頂き、実のある会議にしていきたいと思いました。

事例や実際の動画を見る事で、どんな取り組みを行っているかが明確に分かったので大変になりました。もっと利用者の方の特性と向き合い、どのように支援を行えば利用者の方と職員両者がノンストレスで生活・支援して行けるか考えていこうと思いました。また、会議での留意事項や場を和らげる方法等今後に活用していきたいと思います。

支援会議に参加する事によって他職種からの見方を学んだり、困り事の共有ができ解決の糸口が見えたり、メリットが多くあると思います。Zoomでの会議で視覚的に共有ができ、移動時間や場所の制限がない事で予定が合わせやすく参加しやすくなったと思います。

支援会議及びオンライン活用に関してのポイントを改めて振り返り、わかりやすく学ぶことができましたと思います。コロナ影響により会議や研修等オンラインを活用することが主流となっていて、私自身もメリット、デメリットも感じていますが、有効利用していきたいと思っています。

コロナ過での研修参加はしやすくなったと思います。2人での出席というのはとても良いと思います。小さな事業所ではやはり、夕方以降サービスを離れることが出来ず中々複数人を出席させるのは難しい問題です。支援会議の流れもよく理解できました。

利用者が地域の中で安心して幸せに暮らすためには、様々な関係機関の協力が必要で、そのために同じ方針に沿って、統一した支援を行っていくために支援会議が必要なのだと感じました。支援会議では出席した方々がより発言しやすいように、環境を整えるコーディネーターが大切であると思いました。

支援会議を続けていくと、支援の方向性がより明確になる事もあると感じました。また最近コロナ禍でオンライン会議が増えており、メリットやデメリットもあるものですが、このオンライン会議を生かすことで、より良い支援会議を開けることが出来ればいいと感じました。

支援会議の流れ、開催の為に準備などがわかりやすく理解することができた。経験値の違う2名で出席するなど、深い配慮を感じた。大変勉強になりました。ありがとうございました。

支援会議についての議論は最近違う研修でも行い、いつも着地点が定まらない為、少し苦手意識がありましたが、前向きに参加者全員で取り組むための方法を理解することができました。2名以上で参加するメリットも知ることができましたが、現実的には難しい為、よい方法を考えていきたいと思えます。

参考にさせていただきます。ありがとうございました。

支援を行うために事前の準備とアセスメントの重要性、また他業種との連携の必要性も感じました。コロナ禍で対面が減っているなか、オンラインのメリットを活用していこうと思いました。

Ⅲ.札幌市行動援護フォローアップ研修 事例検討会 実施報告

1.企画意図

事例検討会は動画配信研修における3つのテーマ毎に分けて実施した。それぞれ希望者がオンラインで参加できるようにした。動画配信研修における事例提供者からの動画作成の際の感想や各テーマについての考え方を伝え、各テーマにおける専門的な知識と経験が豊富なスペシャルコメンテーターが解説を行う流れとした。後半はテーマを設定し、少人数でのディスカッションと、全体での共有の場を設けた。動画配信研修の内容についてさらに深い学びと、他者の支援方法や考え方について触れることで、現場実践への活用に役立てていける場となるよう企画した。

2.実施概要

実施日時：

テーマ① 【コロナ禍における余暇支援の実際から学ぶ】	3月14日(月) 18:00~19:30
テーマ② 【危機介入における支援の実際から学ぶ】	3月17日(木) 10:00~11:30
テーマ③ 【他職種連携における支援会議(オンライン含む)の実際から学ぶ】	3月19日(土) 10:00~11:30

実施方法：Zoom

申込総数：205名

テーマ①【コロナ禍におけるよか支援の実際について】	68
テーマ②【危機介入における支援の実際から学ぶ】	71
テーマ③【多職種連携における支援会議(オンライン含む)の実際から学ぶ】	66

共通プログラムについて

事例提供者によるエピソードトーク	15分
動画配信研修のアンケートから意見・感想の紹介、質問への回答	10分
スペシャルコメンテーターによる解説	15分
グループディスカッション	20分
全体共有	25分
まとめ	5分

3.各事例検討会実施報告

テーマ①【コロナ禍における余暇支援の実際から学ぶ】

日時：令和4年3月14日（月）18:00～19:30

事例提供者	中幡 恵太	パーソナルサポートセンターぼけっと副主任 (行動援護事業他) さっぽろ行動援護ネットワーク事務局
スペシャルコメンテーター	坂井 翔一	札幌市自閉症・発達障がい支援センター課長
進行	中幡 恵太	同上

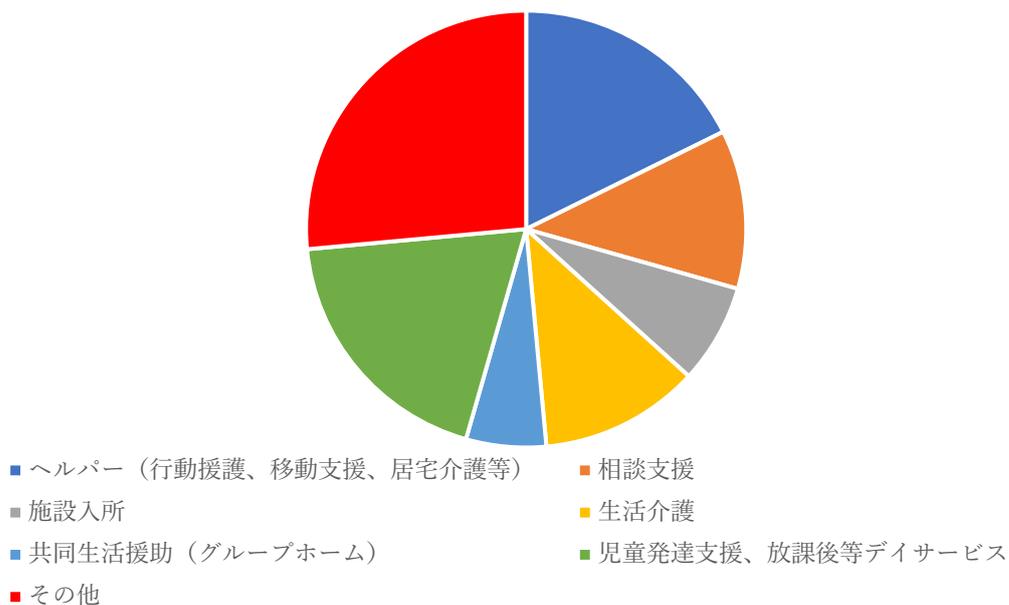
申込者：68名 参加人数：25名 アンケート回答数：22名（回収率：88%）

①参加者概要

職種（申込者）

項目	人数	比率
1.ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）	12	18%
2.相談支援	8	12%
3.施設入所	5	7%
4.生活介護	8	12%
5.共同生活援助（グループホーム）	4	6%
6.児童発達支援、放課後等デイサービス	13	19%
7.その他	18	26%

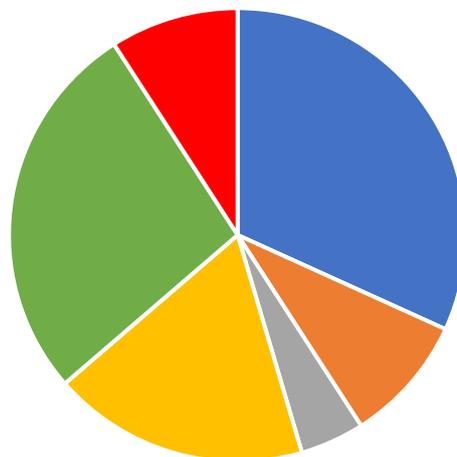
職種（申込者）



職種（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1.ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）	7	32%
2.相談支援	2	9%
3.施設入所	1	5%
4.生活介護	4	18%
5.共同生活援助（グループホーム）	0	0%
6.児童発達支援、放課後等デイサービス	6	27%
その他	2	9%

職種（参加者アンケート）

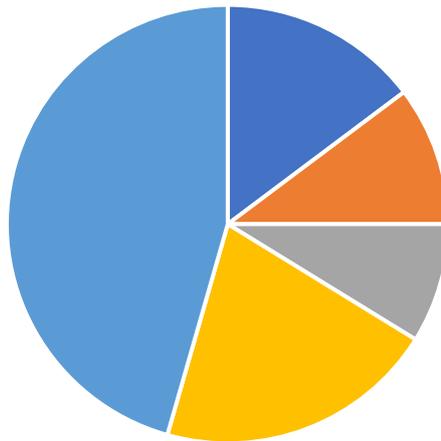


- ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）
- 相談支援
- 施設入所
- 生活介護
- 共同生活援助（グループホーム）
- 児童発達支援、放課後等デイサービス
- その他

経験年数（申込者）

項目	人数	比率
1.1年未満	10	15%
2.1年以上3年未満	7	10%
3.3年以上5年未満	6	9%
4.5年以上10年未満	14	21%
5.10年以上	31	46%

経験年数（申込者）

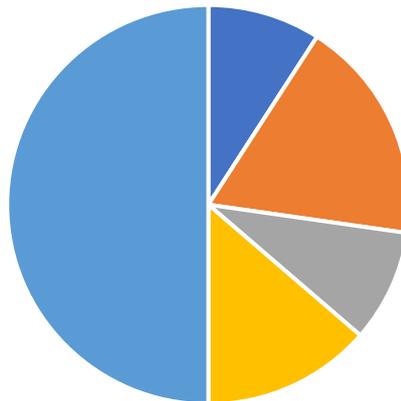


■ 1年未満 ■ 1年以上3年未満 ■ 3年以上5年未満 ■ 5年以上10年未満 ■ 10年以上

経験年数（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1.1年未満	2	9%
2.1年以上3年未満	4	18%
3.3年以上5年未満	2	9%
4.5年以上10年未満	3	14%
5.10年以上	11	50%

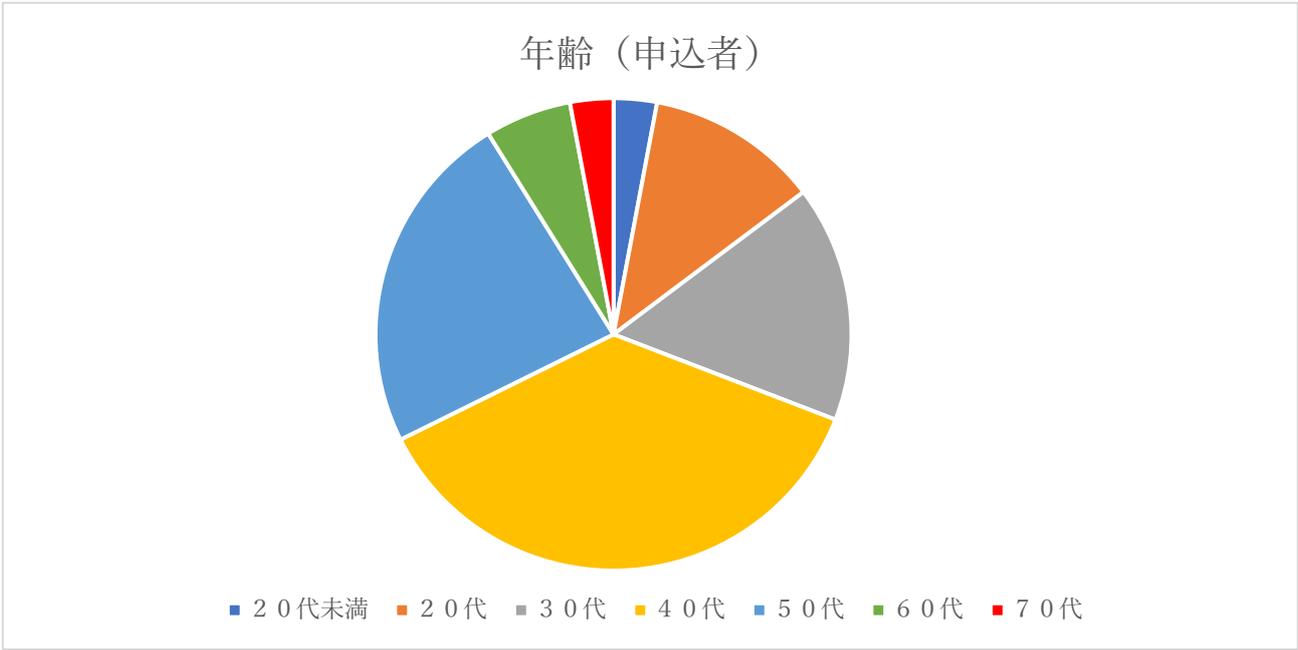
経験年数（参加者アンケート）



■ 1年未満 ■ 1年以上3年未満 ■ 3年以上5年未満 ■ 5年以上10年未満 ■ 10年以上

年齢（申込者）

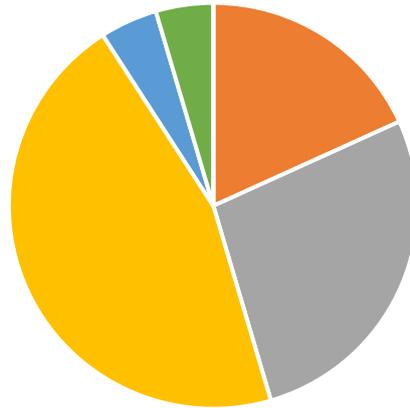
項目	人数	比率
1. 20代未満	2	3%
2. 20代	8	12%
3. 30代	11	16%
4. 40代	25	37%
5. 50代	16	24%
6. 60代	4	6%
7. 70代	2	3%



年齢（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1. 20代未満	0	0%
2. 20代	4	18%
3. 30代	6	27%
4. 40代	10	45%
5. 50代	1	5%
6. 60代	1	5%
7. 70代	0	0%

年齢（参加者アンケート）

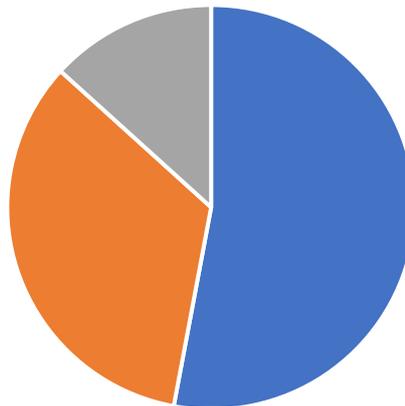


■ 20代未満 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代

支援提供区域（申込者）

項目	人数	比率
1.札幌市民である利用者の支援を行なっている	36	53%
2.札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道内での支援提供	23	34%
3.札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道外での支援提供	9	13%

支援提供区域（申込者）

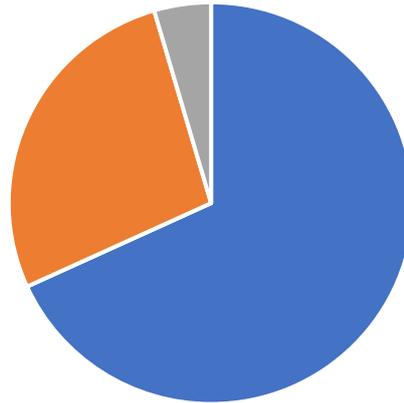


■ 札幌市民である利用者の支援を行なっている
 ■ 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道内での支援提供
 ■ 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道外での支援提供

支援提供区域（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1.札幌市民である利用者の支援を行なっている	15	68%
2.札幌市民である利用者の支援を行っていない。北海道内での支援提供	6	27%
3.札幌市民である利用者の支援を行っていない。北海道外での支援提供	1	5%

支援提供区域（参加者アンケート）

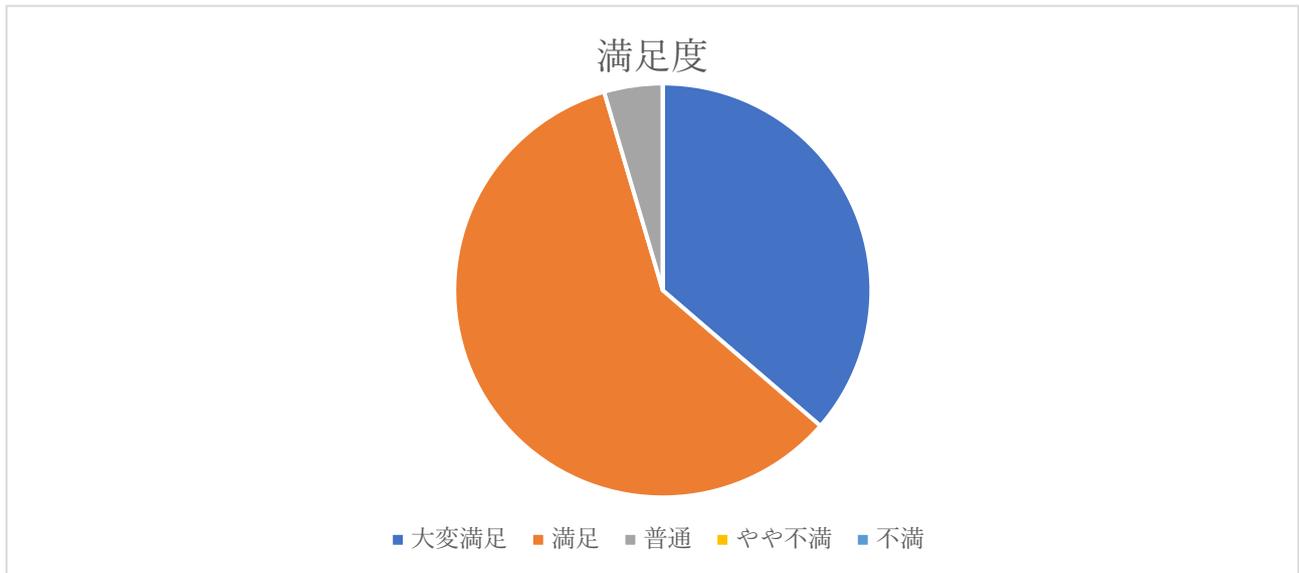


- 札幌市民である利用者の支援を行なっている
- 札幌市民である利用者の支援を行っていない。北海道内での支援提供
- 札幌市民である利用者の支援を行っていない。北海道外での支援提供

②アンケート集計報告

質問1.事例検討会の満足度を教えてください。（参加者アンケートより）

項目	人数	比率
1.大変満足	8	36%
2.満足	13	59%
3.普通	1	5%
4.やや不満	0	0%
5.不満	0	0%



質問2 グループディスカッションでのあなたのご意見をお聞かせください

<p>予め具体的な事例や議題が用意されていても議論が捗るかと思いました。</p>
<p>演劇ワークショップが評判良かったです。</p>
<p>他の事業所の余暇活動を知れて良かったです。重度の知的障害の方の余暇をまだ知りたいです。</p>
<p>機器操作不慣れで皆様にご迷惑をお掛け致しましたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。</p>
<p>コロナ禍であると、特に施設入所などはクラスターを警戒して、帰省どころか外出もまったく行えない状況になっているが、そんな中でも、施設の中でもできることを考えていくことが必要になる。例えば、掃除などをがんばってポイントを貯めたら、好きなプラモデルを購入でき、それをサークル活動で組み立てる等、講師も言っていた様々な要素を組み合わせる等して、より強いよかをつくっていくことや、支援者はプロデュースすることが重要だと感じる</p>
<p>他事業所、他業種の話が聞け参考になりました</p>
<p>皆からこうしたいけど、コロナがとネガティブ発言ばかりではなく、とても前向きな話をしている良いグループでした。</p>
<p>とても参考になりました</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・独自の外出の行先を生み出して工夫している（市の施設を貸し切りで借りる等） ・スペシャルのお出掛けとしては、2泊3日などでヘルパーと旅行のような外出支援を行っている ・小さな情報（あそこのスーパーのベンチは落ち着いて過ごせる、あそこのコンビニの席からは車通りが多く楽しく見られる等）も日々職員同士、共通の書式を作って共有している
<p>グループで他の事業所さんからは、『パチンコ店は換気も良くてコロナにならない』というご意見をいただきました☆</p>
<p>普段と違う業種の方のご意見をお聞きできて貴重でした、ありがとうございます。</p>

<p>業種は違えど同じ利用者の子で生活介護と行動援護使っておられるケースも多いですし、共感できると同時に共有することが大事だと改めて感じました。</p>
<p>違う形態の事業所の話だと、お互いに納得する言い回しになるまでに時間が掛かり、聞かれた事に対してのアウトプットも難しく感じました…</p>
<p>JR が好きな利用者様が、札幌駅には行けなくなったが公園や駐車場から JR 鑑賞をしている</p>
<p>コロナ禍の中で生活や支援の変化は、大なり小なりあったと思います。その中で、「できること」を見つけていくのはコロナがあろうがなかろうが支援には重要なことで、今回のディスカッションで他の施設の方々の事例を聞いていくとやはり相手と視点と様々な違いや発見があって良いなと思いました。</p>
<p>相談支援専門員のため、実際に行っている支援はないため、勉強させていただきたく参加させていただきました。</p> <p>幼少期、児童期に余暇を広げるため、要素をたくさん持つことが、成人の余暇の幅につながるのだなと、今のこどもたちへの関わり的重要性を感じました。また、自分たちが得られた要素だったりを次の支援先に情報提供していくことが幅を広げ、点が線になる支援につながるのだと勉強になりました。</p>
<p>自分は外出支援を行っているため、外出支援はイメージが付きやすいのですが、いろいろな業種の方の話聞くことが出来たので勉強になりました。</p> <p>一人でもよかの時間を過ごすことが出来るように小さな頃からの支援が大切だと感じました。</p> <p>いま出来ることを日頃の支援のなかで意識して取り組んでいきたいと思います。</p>
<p>どちらかと言うと支援・介入数の多い利用者さんについて：家庭でも外出の機会が減るなどで、どう過ごせば良いか困るとの訴えも複数出てきたので、家庭と話し合いながら、家事の参加や、それに伴ってやり方を共有したり、・・・とコロナ禍になって浮き彫りになって来た事に着手できたように思います・・・が、大人の事例を聞いて、ますます気を引き締めました。久しぶりに坂井さんの余暇の講義を聴いて、余暇の要素のバランスにちょっとハッとしたところです。</p>
<p>山口さん三浦さんの話が役にたちました。中幡さんの話されたことも試してみたいと思います。</p>
<p>立場が違う、事業所が違う、経験値が違うといろいろと違う視点から見えてくるものがあり、たくさんさんのきっかけを得ることができました。スタート時間が遅いことからグループの時間をさらに多く持つことは難しいかもしれませんが、可能であれば第一部を 90 分、第二部を情報交換の場としてさらに 90 分とかあるとより深まったかなと感じました。</p>
<p>他の事業所と情報交換することによって、それぞれの工夫していること、アイデアなど知ることができ、自分たちの支援にも取り組んだらもっと余暇の幅が広がるなと思える機会となりました。その中で演劇ワークショップというものを知り、いつか支援の 1 つとして取り入れてみたいなと思っています。</p>

福祉の中でも様々な支援があり、その中でも様々な余暇の過ごし方があると感じました。コロナ禍ということもあり、今までできていた当たり前が出来なくなり、利用者さんとの相談、再アセスメントがより大切になると再認識しこれからの支援に役立てていきたいと思いました。

アセスメントを通じてわかること（例えば道に落ちているものが気になるのならゴミ拾いができないか？）特性に応じたやりがいを見つけてあげる。コロナ禍だからできないではなく、此れとこれを繋げたら出来ることを探すと言う考え方を学んだ。

自分の事業所では、コロナが蔓延する前までは年に数回カラオケに行くなどの行事をしていたが、現在はやっていない。基本的によかについては利用者本人に任せており、利用者が不安に思ったり、支援員から見て利用者に変化があった場合については相談支援という形をとっています。また情報提供などもしています。

③事例検討会実施による効果、反省等

事例検討会では、初めに事例提供者からのエピソードトークとして、動画配信研修の概要説明やコロナ禍における外出支援に関する話をした。コロナ禍だからといってよか支援を諦めるのではなく、できることから始めていくことを改めて伝えている。スペシャルコメンテーターからは、よかを広げていくための工夫やチームで共有して行っていくことなど支援における重要なポイントについて話をした。

グループディスカッションでは、「自分の事業所で行っているよか支援について」の紹介を行った。限られた時間の中でも、必ず1人1回は発言できる機会を設け、よか支援の紹介を行うことができた。全体共有やその後のアンケートの中では、他事業所におけるよか支援を知ること、自分たちの支援に生かせるアイデアを得ることができたという意見や、もっとたくさんの支援事例について知りたかったといった意見が上がっていた。また、グループディスカッションの時間については20分では時間が足りなかったという意見が多く上がっていた。今後も継続してディスカッションの機会を設けたり、実践事例を発表する場があればよいと感じている。

テーマ②【危機介入における支援の実際から学ぶ】

日時：令和4年3月17日（木）10:00～11:30

事例提供者	山口 ゆか	NPO 法人ひなた 管理者 さっぽろ行動援護ネットワーク副代表
スペシャルコメンテーター	石田 昭人	札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる 発達障害者地域支援マネジャー
スペシャルゲスト	A 氏家族	A 氏両親
進行	中幡 恵太	パーソナルサポートセンターぽけっと副主任 (行動援護事業他) さっぽろ行動援護ネットワーク事務局

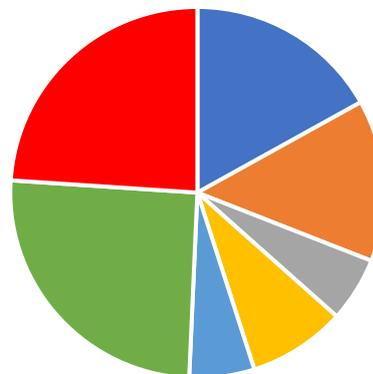
申込総数：71名 参加人数：19名 アンケート回答数：14名（回収率：74%）

①参加者概要

職種（申込者）

項目	人数	比率
1.ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）	12	17%
2.相談支援	10	14%
3.施設入所	4	6%
4.生活介護	6	8%
5.共同生活援助（グループホーム）	4	6%
6.児童発達支援、放課後等デイサービス	18	25%
7.その他	17	24%

職種（申込者）

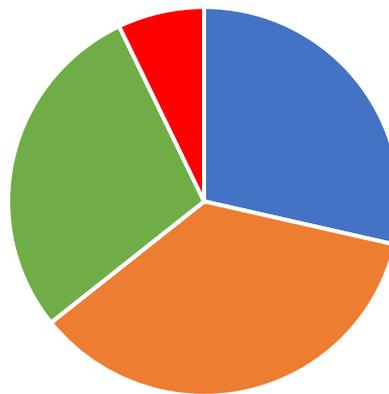


- ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）
- 相談支援
- 施設入所
- 生活介護
- 共同生活援助（グループホーム）
- 児童発達支援、放課後等デイサービス
- その他

職種（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1.ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）	4	29%
2.相談支援	5	36%
3.施設入所	0	0%
4.生活介護	0	0%
5.共同生活援助（グループホーム）	0	0%
6.児童発達支援、放課後等デイサービス	4	29%
7.その他	1	7%

職種（参加者アンケート）

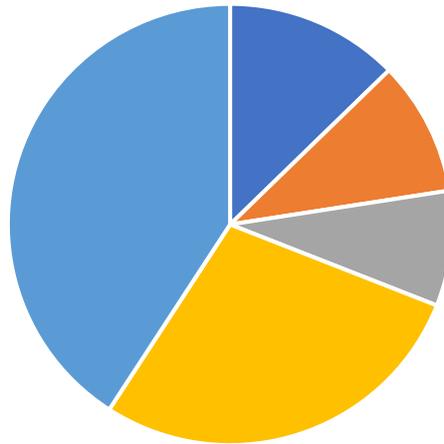


- ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）
- 施設入所
- 共同生活援助（グループホーム）
- その他
- 相談支援
- 生活介護
- 児童発達支援、放課後等デイサービス

経験年数（申込者）

項目	人数	比率
1.1年未満	9	13%
2.1年以上3年未満	7	10%
3.3年以上5年未満	6	8%
4.5年以上10年未満	20	28%
5.10年以上	29	41%

経験年数（申込者）

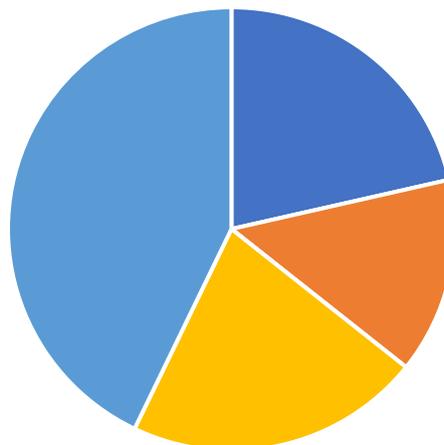


■ 1年未満 ■ 1年以上3年未満 ■ 3年以上5年未満 ■ 5年以上10年未満 ■ 10年以上

経験年数（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1.1年未満	3	21%
2.1年以上3年未満	2	14%
3.3年以上5年未満	0	0%
4.5年以上10年未満	3	21%
5.10年以上	6	43%

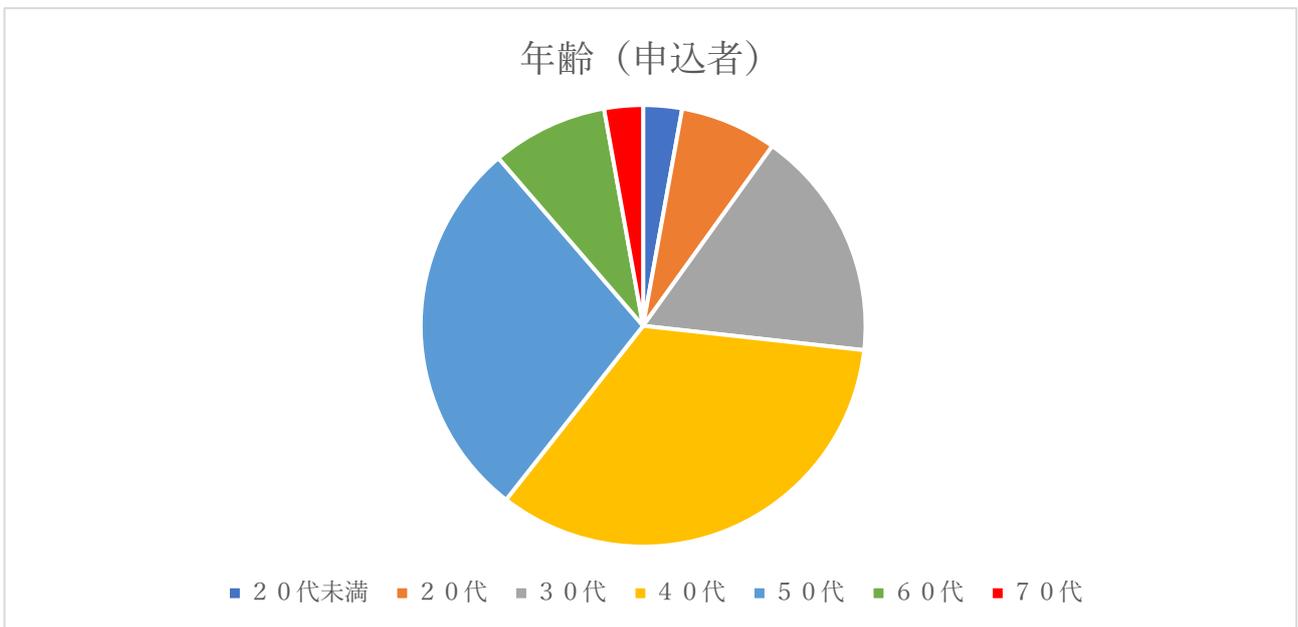
経験年数（参加者アンケート）



■ 1年未満 ■ 1年以上3年未満 ■ 3年以上5年未満 ■ 5年以上10年未満 ■ 10年以上

年齢（申込者）

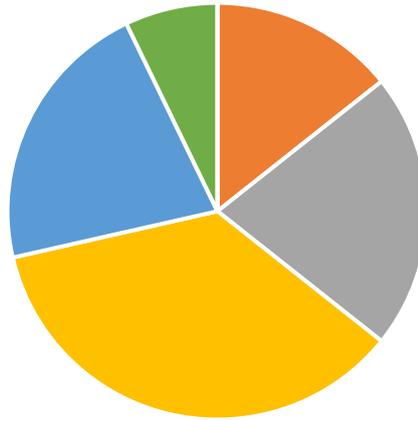
項目	人数	比率
1. 20代未満	2	3%
2. 20代	5	7%
3. 30代	12	17%
4. 40代	24	34%
5. 50代	20	28%
6. 60代	6	8%
7. 70代	2	3%



年齢（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1. 20代未満	0	0%
2. 20代	2	14%
3. 30代	3	21%
4. 40代	5	36%
5. 50代	3	21%
6. 60代	1	7%
7. 70代	0	0%

年齢（参加者アンケート）

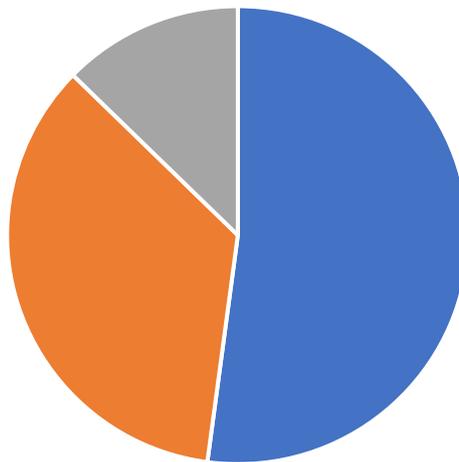


■ 20代未満 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代

支援提供区域（申込者）

項目	人数	比率
1.札幌市民である利用者の支援を行なっている	37	52%
2.札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道内での支援提供	25	35%
3.札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道外での支援提供	9	13%

支援提供区域（申込者）

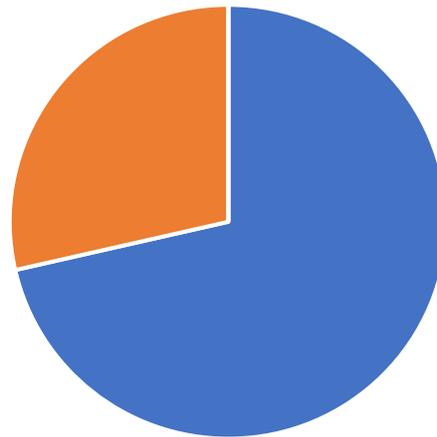


■ 札幌市民である利用者の支援を行なっている
 ■ 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道内での支援提供
 ■ 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道外での支援提供

支援提供区域（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1.札幌市民である利用者の支援を行なっている	10	71%
2.札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道内での支援提供	4	29%
3.札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道外での支援提供	0	0%

支援提供区域（参加者アンケート）



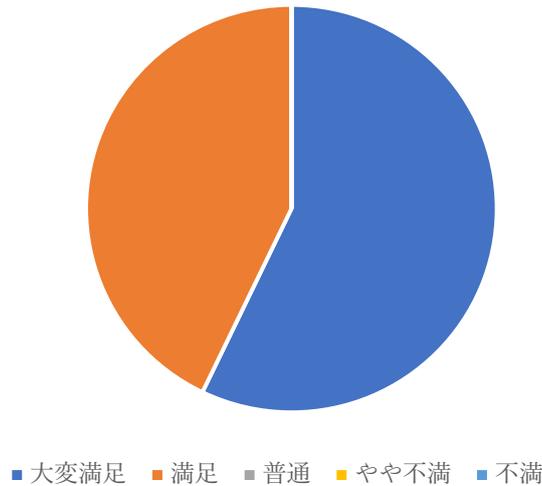
- 札幌市民である利用者の支援を行なっている
- 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道内での支援提供
- 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道外での支援提供

②アンケート集計報告

質問1.事例検討会の満足度を教えてください。（参加者アンケートより）

項目	人数	比率
1.大変満足	8	57%
2.満足	6	43%
3.普通	0	0%
4.やや不満	0	0%
5.不満	0	0%

満足度



質問2 グループディスカッションでのあなたのご意見をお聞かせください。

他事業所の困難事例を聞くことができ参考になりました。

上手に支援を考えられる事業所がある事。チームとして取り組める支援がある事が分かりました。

頭打ちを止めると職員に対して攻撃してくる児童について話をさせていただきました。環境の整備・視覚的なものの提示の等を意見させていただきました。

困っているご本人のために、保護者さんと関わる機関みんなが足並みを揃えられたらいいなと心から思います。石田さんはそれを始めるのに「誰が」と言うよりそう思った人がとおっしゃっていたけれど、なんで揃わないんだろう・・・と自分のケースを振り返って・・・。ひとまず揃えようと言うより目の前の実践の成功を積み重ねることで、耳を傾けてもらえる土台作りだよなあ・・・と自己完結した次第。

予定表にない予定を可能不可能関わらず追加しようとする方に対し、予定外の事を言ったら反応しない、予定通りの事を言ったら反応する、ように対応した。徐々に「カラオケ行きます」等の予定外の発言が、「カラオケは次回にします」等の発言に変わっていった。

各職種の方のいろいろなお話を聞けることは大変参考になりました。

危機介入時のかかわり方はお子さんの個性があることで、それぞれ違うため、この方法がよかったというのは結果であって、そこに至るまでの失敗や過程も大事だなと感じました。そして石田さんの話にありましたセット戦術、実践できる地域になっていきたいなと思いました。アセスメントやコミュニケーションの大切さや連携の必要性、環境調整、どの分野のお話にも出てくることを着実にひとつずつ、児童期にかかわる者として、意識をもって取り組んでいきたいなと思いました。保護者のLINEが1番使いやすいという話も参考になりました。

グループホームでこだわり行動をされる方について話しました。空き時間の過ごし方をスケジュール化し、余暇のバリエーションを増やしたことで、お部屋で穏やかに過ごせる時間が増えました。

問題行動中の気分転換を誤学習にならないために調子のいい時にキューを出したりスイッチ交換したりをしていくことも大事だとわかりました。

タイマーややる事リストなど、特別な事ではない身近な物や活動が支援の糸口になる可能性があることを改めて認識しました。また、環境を変えるというのは場所を変えるだけでなく、支援員を変えたり視覚情報や聴覚情報を変える等様々な方法があることに気付かされました。

ガイヘル中行動停止をした利用者に対し普段は声替えを中心にしていましたが視覚支援を導入しスムーズに動き出すことが出来た。

実際にどこの現場でも同じような事例があったりするが同じ対応の仕方でもやり方や導入前が違うのだなと知るきっかけになりました。ありがとうございました。

相談支援（ピアサポーター）とは別事業所でヘルパー（移動支援・行動援護）をしています。ピアサポーター（当事者）としてなのか、ヘルパーとしてなのか、混じった立場でお話をしてしまいました。

行動援護の二人支援で入ったとき、気になることがあると立ち止まる方がいました。私が入るときは、落ち着いていることが多いので、危機介入というより、その前後の予防的なお話です。

私はその方の後ろを歩くことが多いです。私も発達障害の当事者で、わからないことにびっくりしたり不安になったりすると、行動が不穏になる傾向があります。

私の場合の対処として、歩いているときに、目に映る景色や音の正体を探って、実況中継をすることがあります。声に出すこともあれば、出さないこともあります。正体がわかると安心して、それらをスルーをして、先に進むことができます。

なので、その方の視線の動きの先にあるものについて、言葉に出して呟くと、少し立ち止まってもまた歩き出してくれることが、けっこうあります。

例えば、立ち止まって、夏にガラス戸が開いているのを見たら、「暑いから戸を開けて風を入れてるんだねー」と言ったりします。私の仮説通りなのかはわかりませんが、その後、落ち着いて歩き続けてくれるので、後ろを歩く私は安心します。

ほかの方からの「女性に対してボディタッチをしてしまう方に対して、反応しない対応をしても、別の部分を触ろうとする方」や「フラッシュバックで他害をしたり、自己刺激を続ける方」のお話を聞いても、当事者目線でついつい意見をお話ししてしまいました。

ダメなことはダメと伝えること、その代わりにしてもいいことを伝えること。

「してほしくない行動に反応しない対応」はギリギリの技だと思うので、その前に、その方の伝えたいことを想定し、できる対応をすること。

フラッシュバックの苦勞があって、ボディタッチが可能な方なら、大丈夫な場所を触って（手を握るなど）「今ここにいる」と伝えること、「それは昔の話」と伝えること、などなど、無視されたらやっぱり悲しくなることなど……。

雑駁な話を聞いてくれたグループの皆さん、ありがとうございました。

他事業所の取り組みを聞くだけで参考になりました。

- ・ zoom での初めてのグループディスカッションで、まして進行役で戸惑いました。
- ・ グループディスカッションの時間がもう少しあったら良かったと思います。

③事例検討会実施による効果、反省等

事例検討会では、初めに事例提供者からのエピソードトークとして、動画配信研修の概要説明や、障がい特性の理解の大切さ、児童期の予防的支援の重要性についての話をした。スペシャルコメンテーターからは課題となる行動へのアプローチは冰山モデルの考え方をベースにするのが重要であるという話があり、支援を短期間で集中的にアプローチをかけていくことが重要であるということをお話をいただいた。

グループディスカッションでは、「自分の事業所で行っている危機介入や課題となる行動への取り組みで具体的アイデアについて」の紹介を行った。限られた時間の中でも、必ず1人1回は発言できる機会を設け、自分の事業所や担当しているケースでの取り組みについて紹介を行うことができた。全体共有の場面では各グループで話した内容を共有した。他の事業所での取り組みを聞いて、現場実践に生かせるアイデアを聞くことができたという感想を受け一方で、もっと他の人からの意見やアドバイスを聞きたかったという意見もあった。また、Zoomの操作に慣れていない参加者も多く、ディスカッションの時間が少なかったという意見も上がっていた。今後オンラインでの研修実施の際は研修前に操作のトライアルの機会を設けるなど工夫が必要だと考える。

自閉症の方から気持ちや考えを聞くということは難しいことが多いが、代弁者としてご家族の話を聞くことができるのは大変貴重な経験である。このような機会を設けることができたのは、参加者にとって大きな効果があったと強く感じている。

テーマ③【他職種連携における支援会議（オンライン含む）の実際から学ぶ】

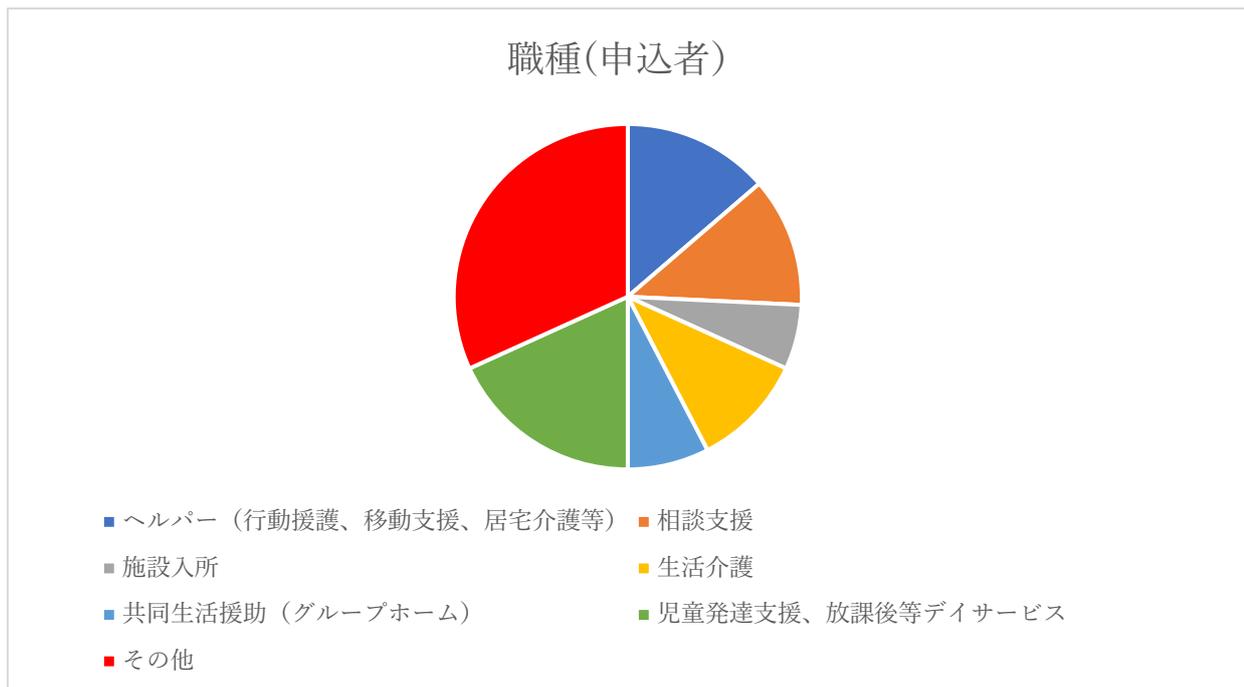
日時：令和4年3月19日（土）10:00～11:30

事例提供者	白川 栄義	社会福祉法人あむ 居宅介護等事業所ばでい管理者 さっぽろ行動援護ネットワーク代表
スペシャルコメンテーター	平松 浩樹	相談室なないろ課長
進行	中幡 恵太	パーソナルサポートセンターぽけっと副主任 (行動援護事業他) さっぽろ行動援護ネットワーク事務局

申込総数：66名 参加人数：19名 アンケート回答数：15名（回収率：78%）

職種（申込者）

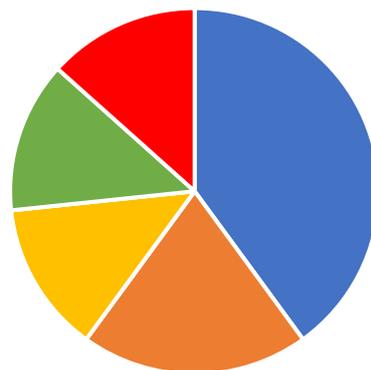
項目	人数	比率
1.ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）	9	14%
2.相談支援	8	12%
3.施設入所	4	6%
4.生活介護	7	11%
5.共同生活援助（グループホーム）	5	8%
6.児童発達支援、放課後等デイサービス	12	18%
7.その他	21	32%



職種（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1.ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）	6	40%
2.相談支援	3	20%
3.施設入所	0	0%
4.生活介護	2	13%
5.共同生活援助（グループホーム）	0	0%
6.児童発達支援、放課後等デイサービス	2	13%
7.その他	2	13%

職種（参加者アンケート）

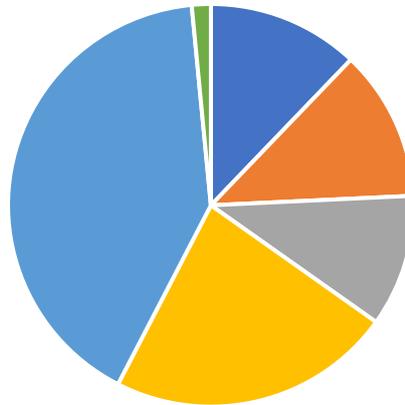


- ヘルパー（行動援護、移動支援、居宅介護等）
- 相談支援
- 施設入所
- 生活介護
- 共同生活援助（グループホーム）
- 児童発達支援、放課後等デイサービス
- その他

経験年数（申込者）

項目	人数	比率
1.1年未満	8	12%
2.1年以上3年未満	8	12%
3.3年以上5年未満	7	11%
4.5年以上10年未満	15	23%
4.10年以上	27	41%
5.不明	1	2%

経験年数（申込者）

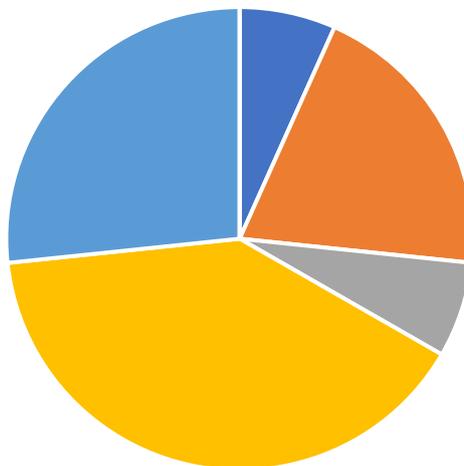


■ 1年未満 ■ 1年以上3年未満 ■ 3年以上5年未満 ■ 5年以上10年未満 ■ 10年以上 ■ 不明

経験年数（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1. 1年未満	1	7%
2. 1年以上3年未満	3	20%
3. 3年以上5年未満	1	7%
4. 5年以上10年未満	6	40%
5. 10年以上	4	27%
6. 不明	0	0%

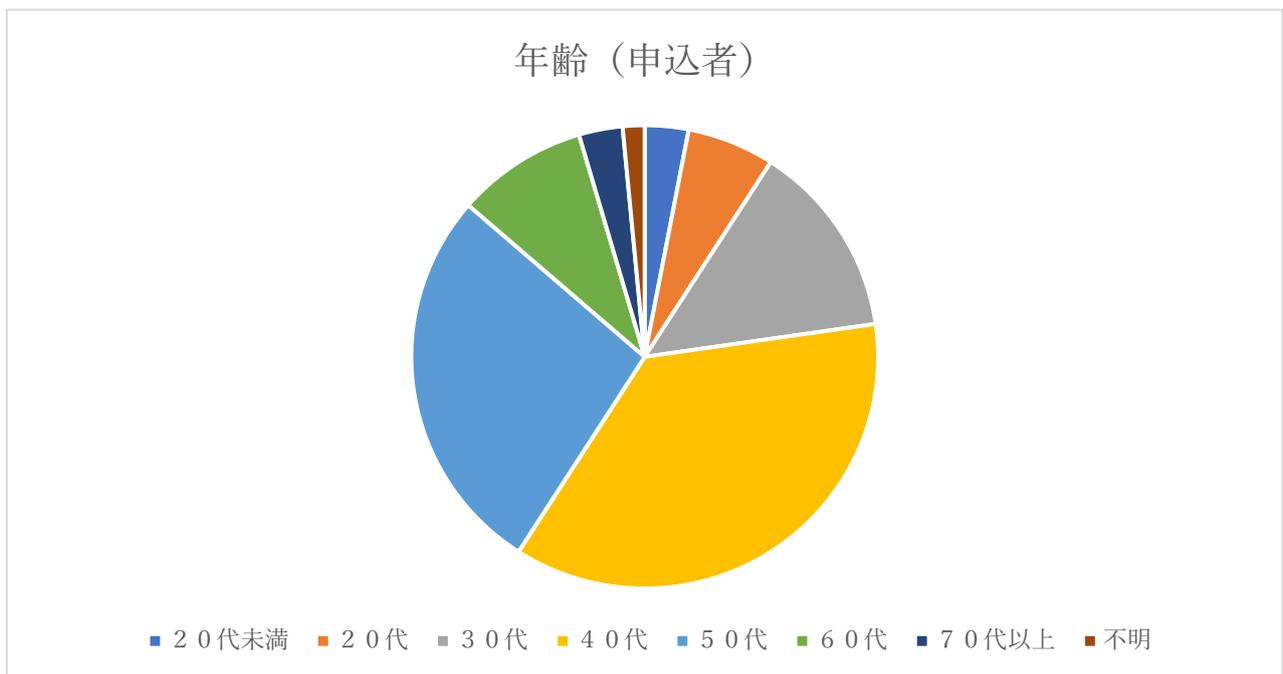
経験年数（参加者アンケート）



■ 1年未満 ■ 1年以上3年未満 ■ 3年以上5年未満 ■ 5年以上10年未満 ■ 10年以上 ■ 不明

年齢（申込者）

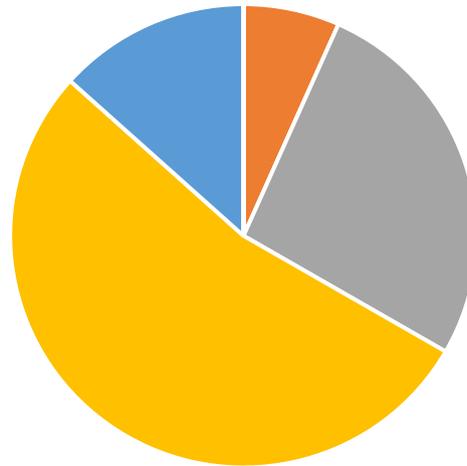
項目	人数	比率
1.20代未満	2	3%
2.20代	4	6%
3.30代	9	14%
4.40代	24	36%
5.50代	18	27%
6.60代	6	9%
7.70代以上	2	3%
8.不明	1	2%



年齢（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1.20代未満	0	0%
2.20代	1	7%
3.30代	4	27%
4.40代	8	53%
5.50代	2	13%
6.60代	0	0%
7.70代以上	0	0%
8.不明	0	0%

年齢（参加者アンケート）

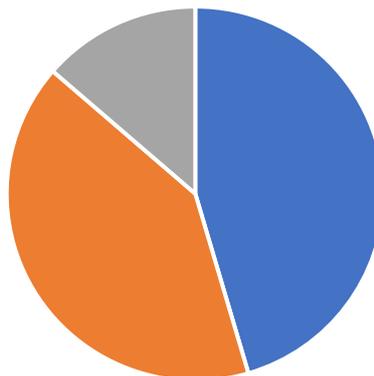


■ 20代未満 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上 ■ 不明

支援提供区域（申込者）

項目	人数	比率
1.札幌市民である利用者の支援を行なっている。	30	45%
2.札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道内での支援提供	27	41%
3.札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道外での支援提供	9	14%

支援提供区域（申込者）

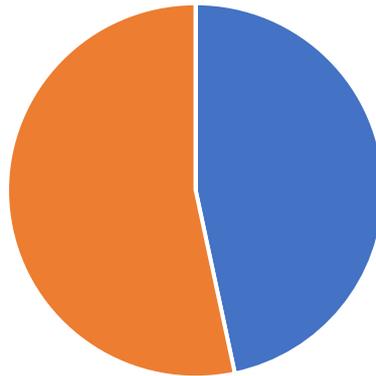


■ 札幌市民である利用者の支援を行なっている。
 ■ 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道内での支援提供
 ■ 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道外での支援提供

支援提供区域（参加者アンケート）

項目	人数	比率
1.札幌市民である利用者の支援を行なっている。	7	47%
2.札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道内での支援提供	8	53%
3.札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道外での支援提供	0	0%

支援提供区域（参加者アンケート）



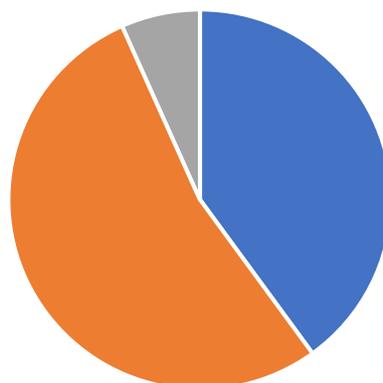
- 札幌市民である利用者の支援を行なっている。
- 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道内での支援提供
- 札幌市民である利用者の支援を行なっていない。北海道外での支援提供

②アンケート集計報告

質問1 事例検討会の満足度を教えてください

項目	人数	比率
1.大変満足	6	40%
2.満足	8	53%
3.普通	1	7%
4.やや不満	0	0%
5.不満	0	0%

事例検討会の満足を教えてください



■ 大変満足 ■ 満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満

質問2 グループディスカッションでのあなたのご意見をお聞かせください。

グループディスカッションでリーダー的な方がグループに一人いるととても流れがスムーズで会話もとてもよく流れ勉強になります。普段意識しないで行っていたことを気付くことができました。他事業所との連携の仕方がいろいろな事業所の認識になってくれることを望みます。連携して支援したいと望んでも他の事業所も賛同してくださらないと上手く連携が取れません。今は、そこが悩みどころです。

課題を明確にすること。なるべくたくさんのアイデアをテーブルに乗せることは大事と思いました。

顔出し無しで失礼しました。会議の目的とか目標ってやっぱりそうだよね！と改めて認識しました。何のための会議ってところ時間を無駄にしないために、肝に銘じました。正直に言うと相談員さん聞いてた？とも言いたいんですが、やろうと思った人が・・とアイデアを聞いて、どう運ぼうかなと策略のヒントになりました。

同じグループの方の取り組みなどを知ることができて良かったです。

従業員間の情報共有をクラウドサービスを使って管理している話があり興味を持ちました。システムの導入までにいろいろ乗り越えなければならないことがありますけど・・・

会議のゴール、おとしどころは常に迷いがあることだったので参加して、いろいろな意見を聞けて大変勉強になりました。

職種が違えば視点も違うので大きなゴールは同じでもそこに向かう過程を近づけていきたいと思うのですが、なかなか難しいことも多く、今回の皆さんのお話を参考にしていきたいと思いました。

毎月の会議では、スタッフ(パート職員も含む)が各担当の児童について様子や今後の課題等話し合う場を設けております。支援で気付いた事を共有し、ディスカッションが盛んに行われるため、会

<p>議で出たアイデアは即実施する事が出来ています。雰囲気固くなく、パート職員や経験が浅い職員も発言しやすいです。</p>
<p>支援会議を行う上で、会議メンバーのアセスメントも重要ではないかと思う。相手を知り、相手の対応可能な範囲での役割分担を行なっていないと、実際にはうまくいかないことが多いと思う。本来の目標値に達するためにも、可能部分からの積み上げでやっていく必要がある。その視点がなく、力量に合わない目標を立てると、なんでやってくれないんだと感情論でガッカリしてしまうことも多いと感じる。</p>
<p>社内の会議では、ミーティングだけでなくロールプレイも取り入れるにしています(現在の環境下では行えていませんが…)</p> <p>より具体的なイメージを共有するのに役立つこともあります。</p>
<p>会議の目的を事前に共有する、それを事業所で共有することの大切さを改めて感じました</p>
<p>他事業所、多職種の方からの話して、話しやすい雰囲気づくりの大切さを感じました。</p>
<p>それぞれの関係機関のアセスメントを相談室として情報共有を行うことも大事だと、改めて感じました。個々での、事業所の力量等については個々の相談員で何となくのアセスメントになっていましたが、相談室のチームとして検討し、利用者さんのチームにおろしていくことを大事にしていこうと思いました。</p>
<p>会議でのルールを明確にして、毎回会議のレジュメと一緒に確認できるようにしている。してほしい行動→お互いを尊重する・うなずく反応する。してほしくない行動→個人攻撃・話を逸脱する・人の意見を否定する 等</p>
<p>意見に対して否定をしない。リアクションを大きくとる、事前に共有しておく、</p>
<p>支援会議 2 日～3 日前に事前資料を配り参加する方にある程度話をまとめてもらう。</p>

③事例検討会実施による効果、反省等

事例検討会では、初めに事例提供者からのエピソードトークとして、動画配信研修の概要説明を中心に支援会議で工夫している事やチームづくりの重要性についての話をした。スペシャルコメンテーターからは多職種連携における役割の大切さや場づくりについての話をした。

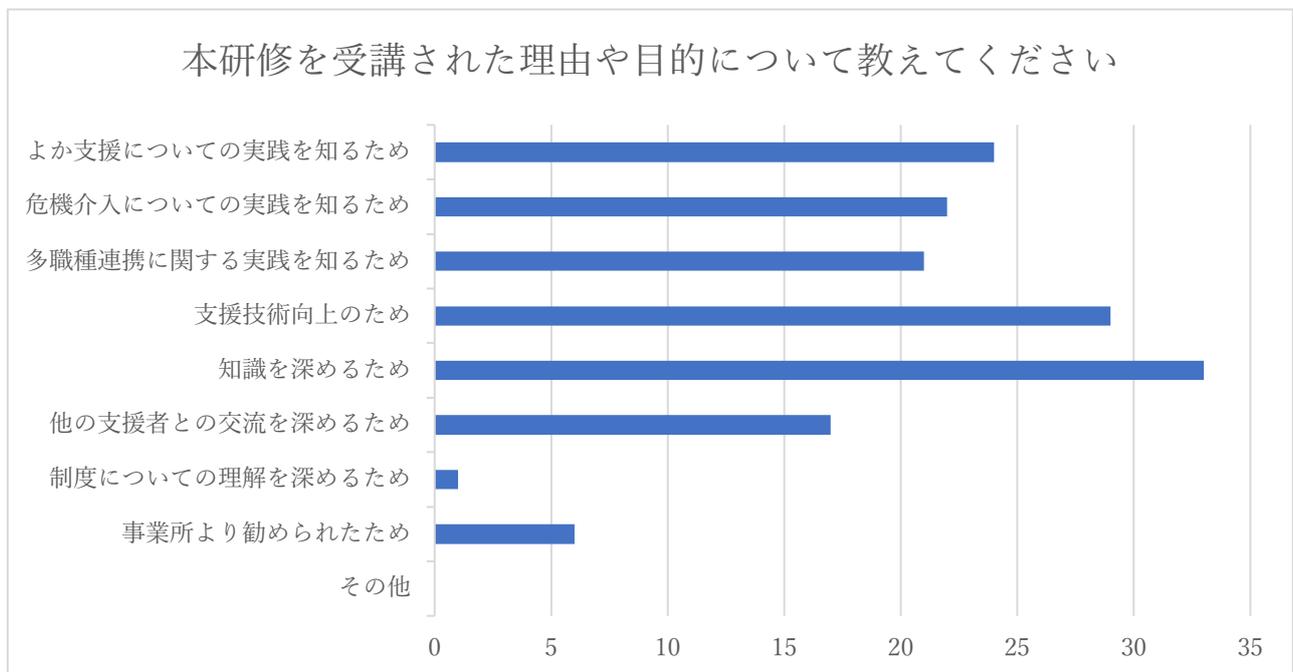
グループディスカッションでは、「それぞれで行っている支援会議(ミーティング、話し合いなど)において、事業所で工夫をしていること」の紹介を行った。限られた時間の中でも、必ず1人1回は発言できる機会を設け、それぞれで工夫しているポイントを紹介することができた。コロナ禍で支援会議が中止や延期になるケースが増えているという話やオンラインでの会議は実施されるがネット環境がなかったり、操作が慣れていないといった話も上がっていた。また、支援会議の進め方に関しても事前準備や枠組みの設定、目標の再確認をするといったアイデアの共有が活発に行われていた。

支援会議を効率的かつ円滑に進めていくためには支援技術とはまた違ったスキルが必要になる。今後も継続してディスカッションの機会を設け、アイデアを共有する機会を設けることが必要である
と考える。

全事例検討会参加者による共通アンケート集計報告

質問 1 本研修を受講された理由や目的について教えてください

項目	人数
1.よか支援についての実践を知るため	24
2.危機介入についての実践を知るため	22
3.多職種連携に関する実践を知るため	21
4.支援技術向上のため	29
5.知識を深めるため	33
6.他の支援者との交流を深めるため	17
7.制度についての理解を深めるため	1
8.事業所より勧められたため	6
9.その他	0



質問2 今回の研修はコロナによる状況により、全てオンラインでの研修となりました。このようなオンラインでの研修に対してのご意見やご感想があれば教えてください

とても良いことだと思います。
グループワークでは時間も少ないので、あまり他業種交流になると、その後の進展になりにくい気がしています。
会場に行けなくてもこのように研修が受けられるのでとてもありがたいです。
私自身、まだ数回のオンライン参加でしたがこれを機に操作をマスターし、研修に参加して参りたく思います。
オンラインだと気軽に参加できるよさがあるし、遠隔の人とも交流ができるのでよい
なれてないせいか、グループディスカッションがスムーズにできなかった
通勤時間にも楽に参加できてとても良いです。
コロナ禍ではしょうがない
集合研修も好きでしたが、コロナ禍でのオンライン研修の良さとして、道外・市外の方とも交流出来たり、自分自身も本州の研修に参加できることはよかったことだと思う
オンラインの方がご自宅からでも受けられる方いらっしゃる札幌以外の方とも交流出来るので良いと思いました。
今回のテーマの余暇についての過ごし方は受けてみて分かった事ですが、同じ事業系の人を同じグループにした方が参考にしやすかったのかなと思いました。ただ自分の知識の幅としては広がったので、後は自分の工夫次第なのかなとも思いました。
実際に集まる研修の方が良いとは思いますが、移動時間等の労力が無い点や、遠くの方とコミュニケーションが取れる点等のメリットはあると思います。
今回初めてオンライン形式の研修に参加しました。コロナ禍で大人数で集まるのが難しい中、遠くの方々とインターネットを通じて意見を交換できる有意義な時間でした。
参加しやすかったです。
オンラインで様々な方々と交流が出来るはとても良いと思います。
コロナが収束してもオンラインで！
オンラインだから参加できました
先に動画を確認して、その後講義とグループワークという流れはとても良かったと思います。グループワークは1画面に映る程度で4~6人が限界だとは思いますが、途中でグループミックスという形があるとより多くの情報交換ができよかったですと感じました。
オンラインだからこそ、仕事終わりにすぐに研修を行えたり、時間を有効に使えるところはとてもメリットであると感じます。
今回オンライン研修であった事により、札幌市外の方とお話しする事が出来たので、良かったと思います。

オンライン研修は気軽に参加できる。
グループワーク時、少人数でオンラインということもあり発言がしやすかった。 オンラインのため職場から参加できる点が良かった。
参加しやすいので個人的にはコロナ後も続けてほしいです。
移動に時間、費用が掛からない事が良い。
もう少しグループディスカッションの時間をいただければよかったですと思います。
コロナが収束してもオンラインで
オンラインでの研修にだいぶ慣れてきたが、やはり対面での研修、グループワークがやりたいなと思います。
参加しやすくもありますが、他機関との交流という部分では直接会えないことでのデメリットもある と思います。
オンラインの研修は参加しやすいので今後も継続してほしいです
このたびはコロナで沢山の方々が集まれない中研修会ができることはとてもとても良いとおもいま す。
場所の移動などに時間を取られず、より多くの人に参加することができよかったです。
対面で行うより参加しやすく思います。ですが、Peatix の申請、チケットの管理がいまいちわかりに くかったです。
オンラインでの研修はとてもありがたいです。
いろんなオンライン研修に出ることで、だいぶ慣れましたが、短い時間の中での初対面の皆さんとの グループワークは、やっぱり少しハードルが高いです。アイスブレイク的な工夫があると助かるかな と思います。
今回のような形で継続でいいと思います
資格取得の研修（zoom）でもグループディスカッションは出来なかったのが、私自身初めての体験 となり今回よい勉強になりました。
オンライン研修は時間の削減という観点ではとても助かります。出張や経費をかけずに、他の地域の 方とコミュニケーションが取れるところも魅力です。今は、熟練した職員の不足で地方へ研修に行く のは難しい状況なので、事業所を留守にすることなく研修を受けられるのはとても助かりますし、参 加したい研修にも積極的に参加できるようになります。もっと活用していきたいと思います。
遠方から参加できるので、非常に助かります。
コロナが終息してもオンラインで。
地方に住んでいるので、移動せずに研修に参加できることはありがたいです。
オンライン上だと参加しやすいのでどんどん参加していきたいと思います。
いろいろな職種の方の意見を聞いて参考になりました。多職種間の連携の経験の多いおがるの石田さ んの意見は本当に参考になりました。

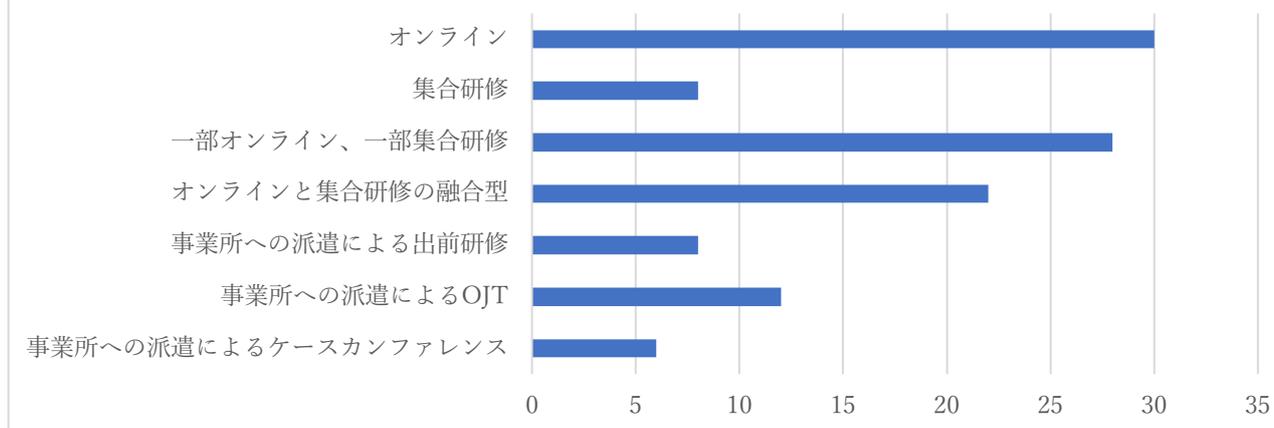
参加しやすく良いと思います。
オンラインであると、参加しやすく助かります
オンライン研修は非集合で行える反面、インターネット環境・カメラ・マイクなど、設備の揃っていることが前提です。個々の設備の状態によって研修の充実度に影響が出てしまう場合もあるのでは…と考えてしまうこともあります(例:音声の途切れやすさ、画面内のプレゼンテーションの見やすさなど)。それらを事前の資料配布などで補えればとても有効な手段であると思いました。
GWが少人数でしたので、全員が話しができていたので良かったです
参加しやすいです。
Peatix の使い方が初めははわかりにくく、苦戦してしまい動画がなかなか見れずに困りました。動画はとても要点を絞ってわかりやすいものでした。参加自体はしやすかったです。
現在の社会情勢では集まったの研修は難しいと思います。オンラインであっても研修を開催していただいても有難く思います。今後感染状況が落ち着いてきたら、今後は雑談もできるような交流もできる場が持てれば良いと思います。
特にないです
コロナ禍で支援会議の回数も減り、オンラインでの研修になり、自宅から参加できるなど、参加しやすい環境づくりも大切だと実感しました。

質問3 次年度以降の研修の実施方法として、様々な形がありますが、どのような実施方法が望ましいと考えますか？(複数回答可)

項目	回答数
1.オンライン	30
2.集合研修	8
3.一部オンライン、一部集合研修	28
4.オンラインと集合研修の融合型	22
5.事業所への派遣による出前研修	8
6.事業所への派遣によるOJT	12
7.事業所への派遣によるケースカンファレンス	6

次年度以降の研修の実施方法として、様々な形がありますが、どのような実施方法が望ましいと考えますか？

(複数回答可)



質問4 今後あなたが参加してみたい・学んでみたい研修内容があれば教えてください

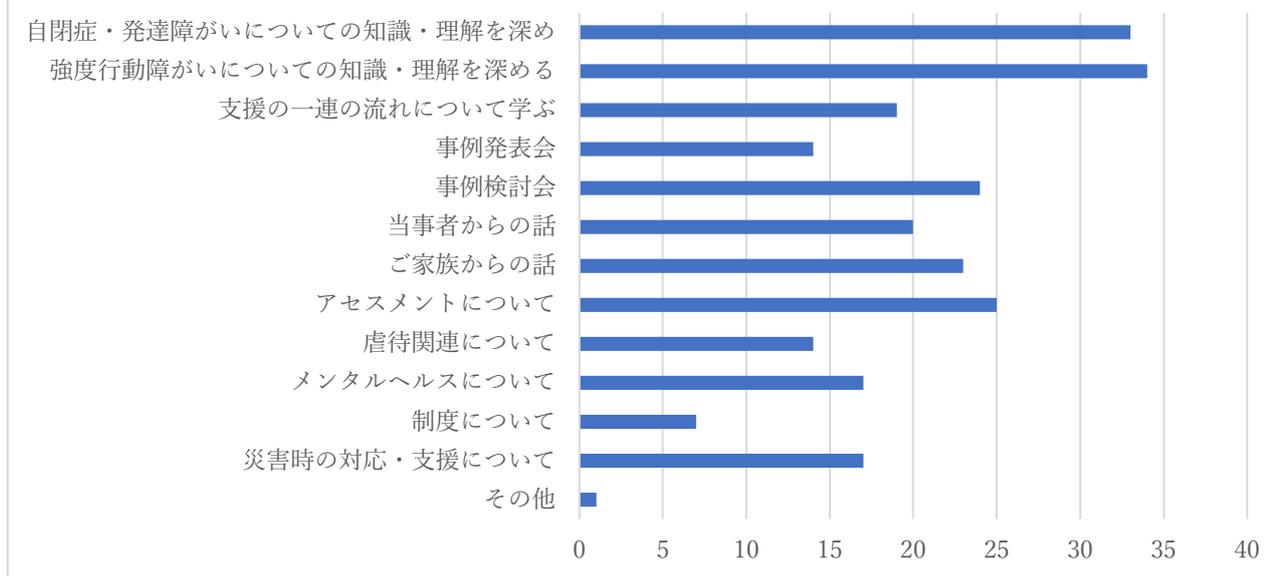
(複数回答可)

項目	回答数
1.自閉症・発達障がいについての知識・理解を深める	33
2.強度行動障がいについての知識・理解を深める	34
3.支援の一連の流れについて学ぶ	19
4.事例発表会	14
5.事例検討会	24
6.当事者からの話	20
7.ご家族からの話	23
8.アセスメントについて	25
9.虐待関連について	14
10.メンタルヘルスについて	17
11.制度について	7
12.災害時の対応・支援について	17
13.その他	1

※その他ご意見

ご家族とどう合意して行くかって対峙して行くのも良いかもしれませんね

今後あなたが参加してみたい・学んでみたい
研修内容があれば教えてください
(複数回答可)



質問5 初任者の方、経験年数が長い方、役職のある方などによって不足している研修があるかと思
います。あなたがより充実が必要だと思われる研修内容について教えてください。今後の研
修内容の参考にさせていただきます。(複数回答可)

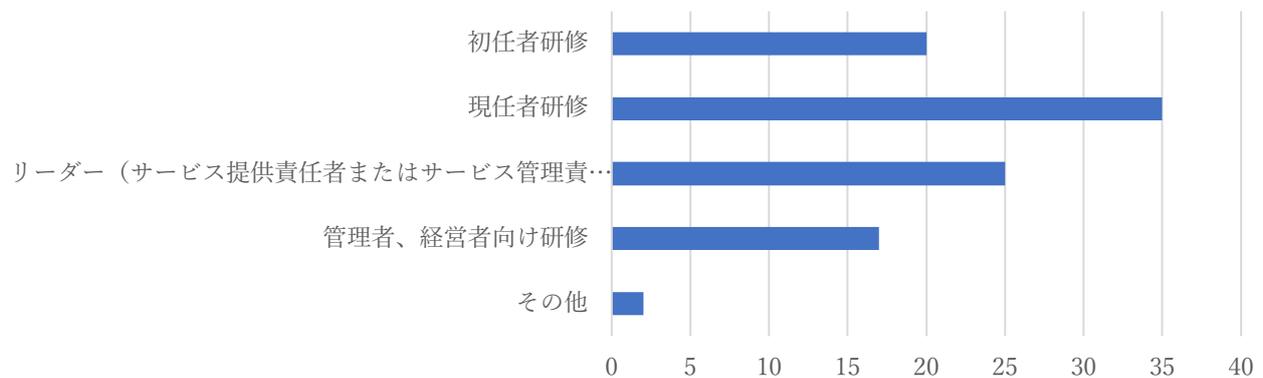
項目	回答数
1.初任者研修	20
2.現任者研修	35
3.リーダー（サービス提供責任者またはサービス管理責任者）向け研修	25
4.管理者、経営者向け研修	17
5.その他	2

※その他ご意見

管理者に障害特性の理解知識が知識がなく、必要な支援を進めたいのだけれど、理解してもらえず
に・・・と言う声が多く聞かれるので（上川は）。それは上川でやってくれてと言われるだろうけ
ど。

上記のすべての方を一人ずつ、一つのグループとして、お互いを補う方法や考え方、労いあい助け
合う方法を学ぶことはできないでしょうか。

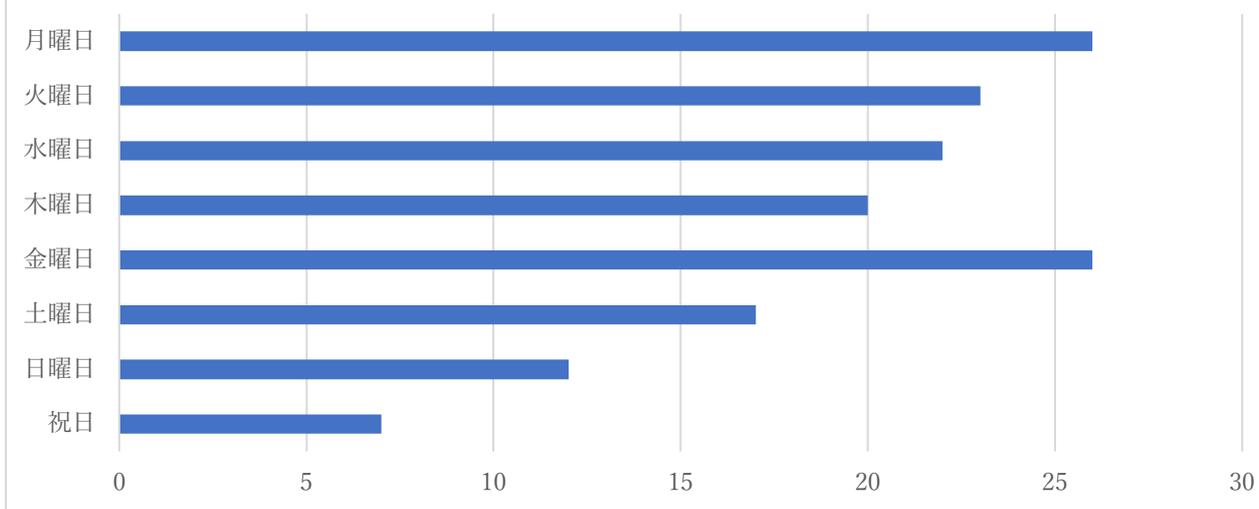
初任者の方、経験年数が長い方、役職のある方などによって不足している研修があるかと思えます。あなたがより充実が必要だと思われる研修内容について教えてください。今後の研修内容の参考にさせていただきます。（複数回答可）



質問6 あなたが研修に参加しやすい曜日について教えてください。（複数回答可）

項目	回答数
1.月曜日	26
2.火曜日	23
3.水曜日	22
4.木曜日	20
5.金曜日	26
6.土曜日	17
7.日曜日	12
8.祝日	7

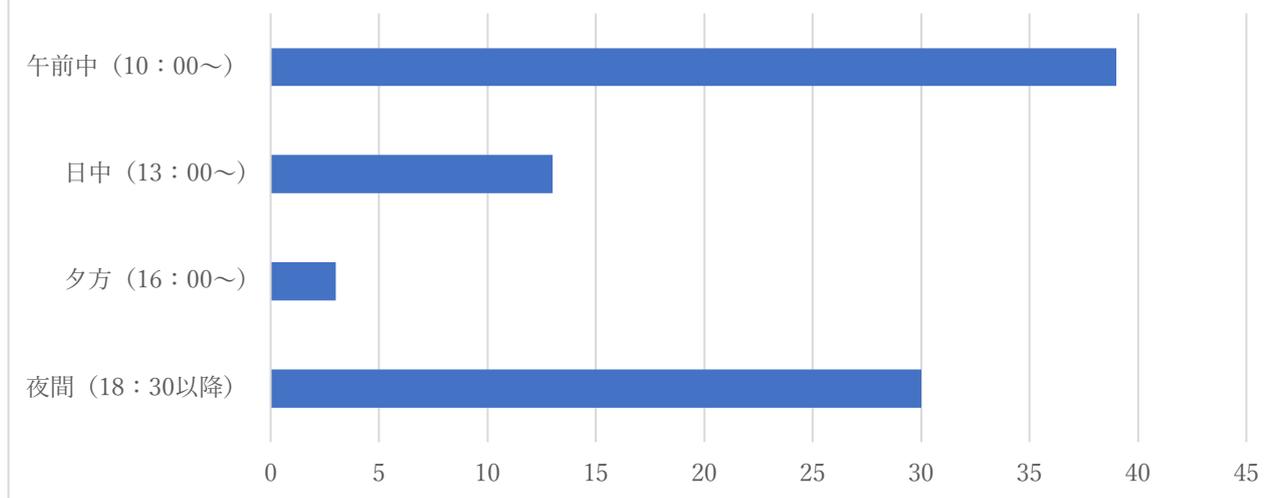
あなたが研修に参加しやすい曜日について教えてください。
(複数回答可)



質問7 あなたが参加しやすい時間帯を教えてください (複数回答可)

項目	回答数
1.午前中 (10:00~)	39
2.日中 (13:00~)	13
3.夕方 (16:00~)	3
4.夜間 (18:30以降)	30

あなたが参加しやすい時間帯を教えてください
(複数回答可)



質問 8 その他（福祉サービス制度に関してや虐待関連、メンタルヘルス、その他のご意見があれば教えてください。または、これらの内容は札幌市障がい福祉課にも共有しますので、お伝えしたいことがあればご記入ください）

誰でも利用できる屋外型アミューズメントパーク
行政の方とも一緒にディスカッションできる機会があるとよい
働いている支援者のメンタル
メンタルを抱えた利用者さんとの接し方、注意点など病名ごとに学びたいです。
支援会議等行う上で、特に困難ケース等においては民間の福祉だけではなく、行政の方々にもチームに加わってもらふことが必要に感じる。個々の支援会議等における課題は、地域課題に繋がっていく重要な情報であるので、そういった会議や研修等々に行政の方にも一緒に参加いただいて、一緒に進めていくことが、札幌市の施策にもつながっていくのではないかと考える

IV.全体統括

約1か月半という短期間ではあったが、事例提供者やスペシャルコメンテーターの協力もあり、無事終了することができた。申込期間も短期間ではあったが、支援の実際から学び、支援の総合力を高めていくという目的に対して、札幌市内を中心に全国から申し込みがあった。

本研修は動画配信研修と事例検討会で構成されている。新型コロナウイルスの影響もあり、感染予防対策をしながら実施できる場所の確保も難しく、オンラインでの実施となった。アンケートでは「オンラインだと参加がしやすかった。」「自分の好きな時間にみれたので参加しやすかった」といった意見も多く上がっていたため、オンライン研修へのニーズはあると考える。一方では、会場で直接顔を合わせて講義を受けたり、ディスカッションをする集合研修のニーズや、事業所に出向いての研修やOJTのニーズもあるため、内容によって、集合研修とオンラインを使い分けていくことが必要ではないかと考える。

テーマ①【コロナ禍におけるよか支援の実際から学ぶ】では、「よか」に対しての考え方や広げていく大切さについて伝えた。コロナ禍において、社会資源の利用の制限や活動の自粛等があり、ヘルパーを利用した活動の機会は大きく減少している。また、外出支援の内容に関しても、感染予防の観点から短時間の外出や公園など広い場所を選んでの外出を実施してきている。アンケートや事例検討会でのディスカッションにおいても外出の機会が減少しており、本人のニーズを満たす活動ができていないという声もあがっていた。もちろん、外出支援だけがよかではなく、生活介護やグループホームなどにおいてもよか支援はある。コロナ禍において直接的な影響を受けてはいないが、長い期間、同じよか活動や支援グッズを提供していることがあったり、本人の希望や興味がわからなく、何を提供したらよいかかわからなく、支援に苦慮しているという声はアンケートの中でも多くあがっていた。動画配信研修や事例検討会を通して、「よか」の概念が広いことを知り、「よか」に対する考え

を変えていくことで、具体的方法について知り、現場実践に生かしていける機会になればと考える。どのライフステージにおいても、「よか」の支援は非常に重要なものであるので、今後も研修を通じて学びを深めていく必要があると強く感じている。

テーマ②【危機介入における支援の実際から学ぶ】では、A氏の支援を中心に、障がい特性の把握から支援までの一連の流れの紹介や、チームでの情報共有の大切さについて伝えた。発達障がい・自閉症の方々の課題となる行動の多くは、ご本人の障がいゆえの、物事のとらえ方や見え方が周囲の環境と異なるために起きているものである。そのため、必要な情報を集め、障がい特性を理解し、環境を合わせていくというアプローチが重要である。また、その環境調整に関しては、一事業所だけでなく、ご家族や関連する事業所との連携が必須である。今回のケースではご家族とのコミュニケーションや他事業所との連携をしっかりと行い、障がい特性の統一した理解の元に支援の再構築を行うことができた事例であるといえる。事例発表を聞きたいというニーズは例年多くあり、課題となる行動や困難事例に対してのアプローチに難しさを感じている支援者は多くいると考えている。今回の動画配信研修や事例検討会を通して、基本的な支援のアプローチ方法やご家族・他事業所とのチームによる情報共有や連携の重要性についての理解を深めることができたらと考える。

また、動画配信研修ではインタビューという形でご家族の生の話を聞く機会を設けることができた。事例検討会においては直接参加もしていただき、気持ちや考えについてお話をしていただいたことは、大変貴重な事であり、参加者にとって大きな効果があったと思う。

テーマ③【多職種連携における支援会議（オンライン含む）の実際から学ぶ】では、支援会議を中心に連携の重要性と支援会議において重要なポイントやテクニックについての話をした。チームを作るためには様々な方法や形があるが、チームづくりで重要なポイントは目標の共有や役割の明確化、情報共有などがあげられる。支援会議において、着地点が決まっていなかったり、役割が明確になっていないと、間延びした支援会議になってしまったり、定期的に集まることに対して積極性を失ってしまうことも多くあるのではないかと考える。支援会議を継続的かつ効果的に進めていくためにはそこに入るチームのメンバーが積極的に参加できるための場づくりが非常に重要であるといえる。また、このコロナ禍の状況でオンラインでの支援会議も増えているという声や、オンラインでは実施ができるが慣れていない事業所やネット環境が整っていない環境だと参加が難しいというケースも多々見られた。オンラインを活用したチームづくりについても練習する場や検討する場が必要であると考えている。本事例では、支援会議を進めていく中でのポイントが網羅されており、今回の動画配信研修や事例検討会を通して、チームで連携するための重要性を改めて考え、支援会議における技術力の向上の一助になればと考える。

あらためて、知的障がい、自閉症の方が地域で暮らしていくためには、支援者の役割は非常に大きいと考える。本研修では「よか支援」「危機介入」「多職種連携における支援会議」という3つのテーマで構成されており、それぞれの側面で非常に重要なポイントが整理できたのではないと思う。特に行動障がいへのアプローチを含めた自閉症支援に係わる支援技術の向上、さらには支援者間のネ

ネットワークづくりについては繰り返しの学びや実践が必要である。今後も継続して研修を行っていくことで、さらなる支援の総合力の向上につながればと考えている。

最後になるが、本事業の取り組みに際し、さっぽろ行動援護ネットワークには様々な面でご協力頂いた。札幌市障がい福祉課給付管理係菺谷係長、泉職員には、事業運営に際し様々なご助言等を賜った。その他、本事業に係わった全ての皆様に感謝を申し上げたい。